



CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

千葉県立美術館 年報 No.24

April 1997-March 1998
ANNUAL BULLETIN OF
CHIBA PREFECTURAL
MUSEUM OF ART





目 次

はじめに	1
沿革	2
平成9年度主要記事	4
展示事業	5
常設展	6
特別展	17
企画展	23
普及事業	26
美術講演会・ミュージアムコンサート・教養講座とヨーロッパの旅	27
実技講座	28
こども写生会・情報資料室・活動協力	29
調査・収集事業	32
収蔵資料	33
管理運営	35
機構	36
平成9年度職員・協議会委員	37
利用状況	38
展示室利用団体	39
施設	43
関係法令等	47
利用案内	48

は じ め に

平成9年度の千葉県立美術館における活動の実績を年報としてまとめました。

本館は昭和49年の開館以来、地域美術館及び近代美術館としての活動を通して、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めてまいりました。

9年度は、特別展として、今世紀を代表する画家の一人である、マルク・シャガールの油彩、版画等による「マルク・シャガール展」と、水彩画の向上と発展に尽力し、特色ある画面構成で水彩画界に多大な足跡を残した小堀進の芸術と業績を回顧した「小堀進展」を開催しました。また、企画展としては、全国公募による「第7回現代日本具象彫刻展」を開催しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、種々のテーマに基づいた常設展を開催したほか、本館以外でも作品鑑賞ができるよう県内2地域において移動美術館を開催しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、展覧会に関連づけて美術講演会を実施するとともに、〈浅井忠の足跡と近代絵画の流れ〉をテーマに、「教養講座とヨーロッパの旅」を実施しました。そのほか、子どもたちに創作の喜びを体験してもらうとともに、美術館活動に対する理解を深めてもらうため、県内の小学生を対象にした「子ども写生会」を実施しました。また、美術の各分野にわたる実技講座を開設し、ますます高まっている県民の美術創作に対する要望にこたえてまいりました。

さらに、作品の収集に当たっては、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体を始め、県民の皆様方の御指導と御支援をお願いいたします。

平成10年5月

千葉県立美術館長

渋 谷 哲 成

沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備室を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月の増築工事で展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日	第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)
昭和45年1月19日	県立美術館建設の請願書が2月県議会で採決される
昭和45年7月24日	建設地として千葉公園に内定する
昭和45年11月12日	第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)
昭和46年3月31日	千葉公園内の美術館基本構想成る
昭和46年6月24日	体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる代案として千葉市中央港埋立地が提示される
昭和47年1月5日	建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する
昭和47年3月31日	基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)
昭和47年7月31日	展示棟第1期工事の実施設計完了する
昭和47年9月21日	展示棟杭打工事着工
昭和47年10月13日	展示棟建築工事請負契約議案可決される
昭和47年12月10日	展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和48年4月1日	文化課に美術館準備室を置き、開館事務に当たる
昭和48年11月30日	管理棟(第2期工事)の実施設計完了する
昭和49年3月31日	展示棟竣工
昭和49年4月1日	千葉県立美術館発足する(職員14名)
昭和49年10月23日	開館記念式典を行う
昭和49年10月24日	開館記念展「千葉県美術展覧

昭和50年2月21日	会」を開催一般公開を始める
昭和50年3月13日	管理棟杭打工事着工
昭和50年3月16日	管理棟建築工事請負契約議案可決される
	管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和51年2月20日	管理棟竣工
昭和51年3月2日	管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
昭和51年6月7日	寄附によって、正面玄関に植栽を行う
昭和52年3月12日	彫刻の屋外展示を始める
昭和52年4月10日	展示棟の一室に美術普及室を開設する
昭和53年1月18日	外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる
昭和53年2月21日	美術普及棟の準備会が発足する
昭和53年10月17日	美術普及棟建築予算が計上される
昭和53年11月18日	浅井忠像完成除幕式
昭和53年11月30日	美術普及棟実施設計完了する
昭和54年1月8日	美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
昭和54年3月5日	県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
昭和54年3月22日	県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和55年2月29日	県民アトリエ棟竣工
昭和55年3月16日	県民アトリエ棟完成記念講演会
昭和55年4月1日	千葉県美術品取得基金条例施行される
昭和55年9月9日	県民アトリエ棟情報資料室を開設する
昭和58年7月29日	美術普及コーナーを開設する
昭和58年11月12日	開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する
昭和61年3月25日	展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化
昭和61年4月10日	入口門扉4カ所設置
昭和61年4月23日	美術館西側沿道寄りの生垣植栽
昭和61年8月12日	講堂浸水防止工事
昭和62年3月25日	機械室増築基本設計及び展示

昭和62年10月15日	棟、収蔵庫、機械室増築工事 実施設計完了する 展示棟、収蔵庫、機械室増築 工事着工（監理・大高建築設 計事務所、施工・株式会社竹 中工務店）	する 平成2年6月8日 平成2年9月29日
昭和63年5月20日	受水槽設備改修工事（地上式） 着工	空調機改修工事完了する 収蔵庫（第1、2室）冷凍機 改修工事着工
昭和63年8月31日	受水槽設備改修工事（地上式） 完了する	案内標識改修工事着工 収蔵庫（第1、2室）冷凍機 改修工事完了する
昭和63年8月31日	展示棟、収蔵庫、機械室増築 工事完了する	案内標識改修工事完了する 空調用ポンプ改修工事完了す る
平成元年2月28日	増築展示棟周辺芝張工事完了 する	運営の一部が（財）千葉県社 会教育施設管理財団へ委託さ れる
平成元年4月1日	普及課が新設され、3課とな る	温湿度記録装置改修工事完了 する
平成元年4月20日	開館15周年記念特別展「房総 と近代美術」を開催する	食堂改修工事完了する 開館20周年記念特別展「房総 の美術」を開催する
平成元年9月11日	空調機改修工事実施設計完了	ガス設備改修工事完了する

平成9年度主要記事

4月1日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」	常設収蔵作品展 「素描と油彩画」 (1月18日まで)
5月3日	「新収蔵作品」 (4月27日まで) 特別展「マルク・シャガール展」 (6月22日まで)	12月2日 書講座 (12月4日まで 日数3日)
5月13日	洋画講座 (5月23日まで 日数9日)	12月4日 企画展「第7回現代日本具象彫刻展」 審査会
5月31日	第1回美術講演会	12月8日 企画展「第7回現代日本具象彫刻展」 審査結果発表
6月10日	日本画講座 (6月26日まで 日数12日)	1月24日 企画展「第7回現代日本具象彫刻展」 ・授賞式 ・展覧会
6月28日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」 「書」 「人物の表現」 「海・山のある風景」 (8月31日まで)	常設収蔵作品展 「浅井忠その生涯」 (2月22日まで)
7月1日	陶芸講座 (9月2日まで 日数9日)	2月12日 金工講座 (3月5日まで 日数12日)
7月13日	第2回こども写生会	2月28日 常設収蔵作品展
7月23日	博物館実習 (7月29日まで 日数6日)	「房総と近代美術」 「植物の表現」 (3月23日まで) 「彫刻」 (4月12日まで)
7月29日	第2回こども写生会展 (8月3日まで)	
8月9日	第1回教養講座	
9月6日	特別展「小堀進展」 (10月12日まで)	
9月9日	版画講座 (9月26日まで 日数12日)	
9月13日	第2回教養講座	
9月20日	ミュージアムコンサート	
9月27日	第2回美術講演会	
10月4日	第3回教養講座	
10月22日	彫刻講座 (11月5日まで 日数10日)	
11月12日	企画展「第21回千葉県移動美術館」 (東金文化会館 11月23日まで)	
11月14日	ヨーロッパの旅 (11月23日まで 日数10日)	
11月15日	常設収蔵作品展 「金工の世界」 (1月18日まで)	
11月27日	企画展「第21回千葉県移動美術館」 (ふれあいプラザさかえ 12月6日まで)	
11月29日	企画展「第7回現代日本具象彫刻展」 公募作品搬入 (11月30日まで)	

展示事業

常設収蔵作品展は、日頃鑑賞の要望の高い作品を選んで紹介する「房総と近代美術」などを始め、「人物の表現」「金工の世界」「素描と油彩画」「浅井忠その生涯」「植物の表現」など、いくつかのテーマに基づく構成により開催した。

特別展としては、「マルク・シャガール展」と、水彩画家の「小堀進展」を実施した。

また、企画展としては、「第7回現代日本具象彫刻展」と「第21回千葉県移動美術館」を東金市と印旛郡栄町で開催した。

「房総と近代美術」

浅井忠や房総にゆかりの作家を始めとして、日頃鑑賞の要望の高い作品を紹介した。

会期	1 平成9年4月1日(火)～4月27日(日)	24日間
	2 6月28日(土)～8月31日(日)	56日間
	3 平成10年2月28日(土)～3月22日(日)	20日間
展示点数	1 23点	
	2 21点	
	3 23点	
入場者数	1 8,655人	
	2 23,761人	
	3 8,669人	

〈洋画〉		
1 浅井 忠	藁屋根	1887頃
2 "	小丹波村	1893
3 "	漁婦	1897
4 "	フォンテンブローの夕景	1901
5 "	農婦	1902
6 "	婦人像	1907
7 石井 柏亭	冬の朝(行徳)	1909
8 梅原龍三郎	竹窓読書図	1937
9 "	純子像	1968
10 "	皇居	1980
11 鹿子木孟郎	裸女と野花	
12 小堀 進	南欧の丘	1962
13 "	逆光	1974
14 安井曾太郎	熱海附近	1929
15 クールベ	眠る人	1853
16 "	雪の中の小鹿	1869頃
17 コラン	田園詩	1903
18 コロー	フォンテンブローの風景	1830～35
19 "	ナポリ近郊の思い出	1860～65
20 フォンタネージ	川辺の二頭の牛	
21 "	十月、牧場の夕べ	1860
22 "	牛を追う農婦	1862頃
23 "	森の空地の農婦	"
24 ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860～61
25 ルノワール	少女像	1916～18
26 ローランス	カルカッソヌの幽閉者の解放	
〈日本画〉		
1 石井 林響	老松白鷺之図	
2 石井 林響 木華開耶姫 1906		
3 "	桃源行 1913	
4 "	蓬萊仙境之図 1927	
5 富取 風堂 斜陽(夏すがた其一) 1936		
6 "	夜(夏すがた其二) "	
7 "	葛西風景 1937	
8 "	漁村の初夏 1942	
9 "	暮色 1962	
10 "	初夏 1972	
11 東山 魁夷 春雪 1973		
〈彫刻〉		
1 高村 光太郎 裸婦座像 1916頃		
2 "	手 1918	
〈工芸〉		
1 香取 秀真 瑞鳥飾三足鑓		
2 "	鳩香炉	
3 "	鳥銅鳳凰香炉 1911	
4 津田 信夫 月下妖麗		
5 "	煙草入 1926頃	
6 "	ラジエーターの装飾 1929	
7 "	変貌七色 1933	
8 "	鑄銅水盤 1937	
9 "	子迷家鳴 1938	
10 宮之原 謙 白磁四方百合象嵌大皿 1935頃		
11 "	象嵌磁盤上花蝶鉢 1938頃	
12 "	象嵌磁サボテン壺 1970	
13 "	鉄茶釉鱗文花瓶 1975頃	

「新収蔵作品」

平成8年度に新たに収蔵した日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の作品を紹介した。

会 期 平成9年4月1日(火)～4月27日(日) 24日間

展示点数 52点

入場者数 8,655人

〈日本画〉

1 浅井 忠	狂女		4 岩田 藤七	水指	
2 立石 秀春	九十九里浜	1993	5 "	水指	
3 富取 風堂	南天		6 各務 鉱三	水指	
4 "	椿と鶯鶯		7 "	花瓶	
5 "	藤と懸巣		8 小林 正利	宴野	1996
6 "	八重桜		9 佐藤 陽雲	木彫彩漆香盒	
			10 高井 白陽	茶托	
			11 津田 永寿	峋	1968
			12 沼田 一雅	鸚鵡	

〈洋 画〉

1 木下藤次郎	波	1905	13 信田 洋	楓透彫腕輪	
2 大野 隆徳	不忍池の初夏	1929	14 "	菊花(ブローチ)	
3 "	宇治平等院鳳凰堂	1931	15 "	鶴模様コンパクト	
4 "	ジョッキにさせるばら	"	16 作者不詳	香合	
5 "	信濃路の雪(2)	1937頃			
6 "	北京・北海の春(一)	1938			
7 篠崎 輝夫	西域紀行	1995	1 今関 健竹	山峡の水	1964
8 "	トルファン閑日	1996	2 "	秋花	1969
9 館野 弘	僕たちの将来ー重い雲ー	"	3 "	石山	1973
10 星加 達夫	影	"	4 "	ふるさと	1981
11 三宅 克己	美濃養老公園		5 "	白雪	1983
12 宮崎 丈二	二月風景	1930	6 "	若草山	1986
13 若山 保夫	まなざし・1944	1996	7 "	左千夫の歌	1988
			8 小暮 青風	石見の海	1979
			9 "	春風馬提曲	1981

〈彫 刻〉

1 大須賀 力	或るポーズ	1988	10 "	旅に病んで	
2 新海 竹太郎	老馬	1921	11 "	若き日に	1995
3 長谷川 昂	砂あそび	1997	12 "	刀狩河泊之	

〈工 芸〉

1 飯田 美郎	バラ模様コンパクト	
2 岩田 藤七	茶碗	
3 "	茶碗	

〈版 画〉

1 東山 魁夷	濤声	1994
2 山下 哲郎	TRAVEL-12	1996

「人物の表現」

人物をモチーフにした日本画、洋画、彫刻の中から、主として人物の魅力が生き生きと豊かに表現されている作品を紹介した。

会 期 平成9年6月28日(土)～8月31日(日) 56日間

展示点数 21点

入場者数 23,761人

〈日本画〉

1 五十嵐 幹	華	1976
2 稲木 皓人	更衣	1973
3 村松 乙彦	化粧	1947
4 横尾 芳月	澄心	1980
5 ツ	春風	1986
6 若木 山	海女	1952
7 ツ	潛	1966
8 渡辺 学	下総の海女	1982

3 黒田 重太郎	女と小犬	1928
4 櫻井 晨正	Carrie	1990
5 霜鳥 之彦	ロシアの女	1923
6 武内 和夫	緑蔭三女	1974
7 都鳥 英喜	婦人像	1919頃
8 不破 章	浴衣	1960
9 松澤 茂雄	海辺の裸婦	1981
10 山谷 鎌一	風	1970

〈洋 画〉

1 安藤 信哉	二人	1957
2 大久保 作次郎	海水浴帰り	1917

〈彫 刻〉

1 高村 光太郎	十和田裸婦像のための中型試作	1953
2 舟越 保武	婦人像	1985
3 本郷 新	裸婦	1952

「海・山のある風景」

海、山を主要なモチーフとして取り入れ、自然の美しさや雄大さを表現した作品に焦点をあて、日本画、洋画、工芸、版画など様々な分野の作品を紹介した。

会期 前期 平成9年6月28日(土)～7月21日(月) 21日間
 後期 7月27日(日)～8月31日(日) 31日間
 展示点数 40点
 入場者数 22,919人

〈日本画〉

1 岩崎 巴人	波濤岩礁図	1974	15 十亀 広太郎	犬吠埼
2 大田 歳	北海	1979	16 高橋 規矩治郎	滯船
3 古城 江觀	山		17 椿 貞雄	鋸山から見た房総半島
4 小宮山 俊	赤い嶺(雪稜)	1988	18 "	犬吠埼
5 "	白い嶺	"	19 鶴田 吾郎	朝日連峰
6 杉原 元人	海花	1975	20 "	ヒマラヤ(ダージリン)
7 吉岡 堅二	濤	1939	21 "	お山の鈴音
			22 都鳥 英喜	海浜風景
			23 富田 通雄	外房鵜原
			24 中西 利雄	外房風景
			25 服部 正一郎	海鹿島山
			26 前嶋 實	九十九里初夏
			27 溝口 七生	高原の樹々
			28 吉田 博	雨後の穂高山
5 安藤 信哉	みなど			
6 石井 柏亭	信州風景	1948		
7 石川 欽一郎	赤城淡煙		1 青木 滋芳	洞門
8 加藤 源之助	秋の山(大和初瀬村)	1908	2 "	黒潮
9 鹿子木 孟郎	風景			
10 小林 数	アマダブラム峰(ヒマラヤ)	1984		
11 小山 周次	銚子犬吠埼	1961	1 川瀬 巴水	房州太海
12 斎藤 捷夫	海辺の光景	1983	2 東山 魁夷	「リトグラフ集『冬の詩』」より 5.樹氷
13 櫻田 精一	太海	1952	3 "	濤声
14 鰯 利彦	房州伊豫ヶ岳	1970頃		1994

「書」

房総の優れた書家に焦点をあて、多様な書の表現を紹介した。

会 期 平成9年6月28日(土)～8月31日(日) 56日間

展示点数 28点

入場者数 23,761人

〈書〉

1 浅見 喜舟	無事	1973	15 高澤 南総	一道飛泉萬松裡	1976
2 ツ	太公有意垂釣	1983	16 ツ	春風秋月	1965
3 ツ	心田灑掃淨無塵	ツ	17 種谷 扇舟	故郷之山河	1971
4 浅見 錦龍	良寛の詩	1968	18 千代倉 桜舟	大王のひすめの音も…	1979
5 ツ	蘭亭序	1981	19 ツ	宗左近詩(繩文太鼓より)	1993
6 今関 僚竹	山峠の水	1964	20 福田 丞洲	蘇東坡詩	1983
7 ツ	ふるさと	1981	21 ツ	摩訶般若	1993
8 ツ	白雪	1983	〈篆 刻〉		
9 江川 碧潭	白雲青山詩		1 石井 雙石	一笑百印	1947
10 小暮 青風	漂泊の思い	1985	2 ツ	故人今人如流水	1964
11 ツ	刀祢河泊之		3 ツ	水廣魚游	1949
12 ツ	石見の海	1979	4 ツ	月入斜窓曉寺鐘	1956
13 鈴木 方鶴	華下一壺酒	1984	5 ツ	陶犬瓦雞	1952
14 ツ	一笑千山青	ツ	6 ツ	醉郷侯印	ツ
			7 ツ	游魚出水帰燕受風	1957

「金工の世界」

津田信夫、香取秀真を中心に近代金工史を彩る金工作品を紹介した。

会 期 平成9年11月15日(土)～平成10年1月18日(日) 47日間

展示点数 45点

入場者数 33,374人

1	会田 富康	蓋のある青銅壺	1965	24	高村 豊周	香炉	
2	"	青銅双鳥置物		25	津田 永寿	鳥の花器	1979
3	飯田 美郎	緑陰	1973	26	津田 信夫	煙草入(巻煙草箱)	1926
4	大須賀 選	作品63-7(室内灯ろう)	1963	27	"	一點玲瓏	1934
5	大須賀 喬	蝶文黒銅香炉	1983	28	"	子迷家鳴	1938
6	鹿島 一谷	布目象嵌菱つなぎ文南鎌水指	1981	29	"	鷺	1939
7	香取 秀真	鳥銅鳳凰香炉	1911	30	"	唐獅子置物	1946
8	"	瑞鳥飾三足鑪		31	"	月下妖麗	
9	"	美々豆久香爐		32	"	水盤	
10	"	千本松文釜		33	"	兎	
11	"	鶴文鉄釜		34	"	犬	
12	"	鋳鉄茶釜		35	信田 洋	銀壺(花ひらく)	1969
13	"	菊文釜		36	"	帯装瓶	1971
14	"	燼壺		37	"	銀瓶(マーキュリー)	1978
15	香取 正彦	からかね水注	1964	38	堀口 光彦	日曜日の雨	1977
16	"	鋳銅四神文四方花瓶	1952	39	宮田 宏平	生命の透間風	1982
17	"	臘銀黄銅鑄分六方口花瓶	1972	40	山室 百世	鋳銅草花置物	1933
18	"	玉装花瓶	1975頃	41	"	鋳銅萌ゆる力置物	1940
19	小林 正利	宴野	1996	42	"	鋳銀小鳥のささやき	1943
20	鈴木 治平	条紋金彩花瓶	1977	43	"	鋳銅想念置物	1953
21	"	湿原の詩	1985	44	"	鋳銅第三の指向花器	1958
22	関谷 四郎	銅鉄壺	1974	45	"	臘銀粧える鳥置物	1964
23	高村 豊周	青銅花入					

「素描と油彩画」

近代洋画界で活躍した作家の人物デッサンや風景のスケッチなど素描を中心に、油彩画も併せて紹介した。

会期 平成9年11月29日(土)～平成10年1月18日(日) 35日間

展示点数 41点

入場者数 27,713人

1	足立 源一郎	女性コスチューム	1912~25	22	中西 利雄	長崎にて	1936
2	〃	裸婦	〃	23	〃	マドマーゼルH (A)	1940~43
③	〃	水郷初夏(十二橋)	1955	24	原 勝郎	デッサン(C)	
④	〃	水郷初夏(中洲)2	〃	25	〃	デッサン(H)	
5	須田 国太郎	デッサン(水辺風景)	1951	26	〃	デッサン(J)	
6	〃	デッサン(能舞台)	1956	27	〃	デッサン(K)	
7	〃	デッサン(腰かける裸婦)		28	〃	デッサン(O)	
8	〃	デッサン(民家)		⑨	〃	モンマルトル	1935
9	田中 善之助	高台寺	1906	⑩	〃	樹	1955
10	〃	出町	〃	31	安井 曾太郎	デッサン(裸婦)	1907
⑪	〃	パリの女	1921	32	〃	デッサン(裸婦)	〃
⑫	〃	初秋の庭	1932	33	〃	デッサン(少女)	1937
13	鶴田 吾郎	裸婦	1947	34	〃	デッサン(少女のいる風景)	1943
14	〃	中沢弘光氏	1954	35	〃	デッサン(人形を持つ少女)	
15	〃	十和田の宿	1960	⑯	〃	熱海附近	1929
16	〃	差木地		37	柳 敬助	デッサン(腰かける裸婦)	
17	〃	麦打ち		38	〃	デッサン(ポーズする裸婦)1	
⑯	〃	鷹の巣の雪山	1954	39	〃	デッサン(母子像)	
⑯	〃	谷川岳	1959	⑩	〃	静物	1921頃
20	中西 利雄	T嬢	1935	⑪	〃	婦人像	
21	〃	帽子をかぶった女	〃			※番号に○のついた作品は油彩画	

「浅井忠 その生涯」

浅井及び浅井と交流のあった作家たちの作品と資料により、浅井忠の生涯と画業の一端を紹介した。

会 期 平成10年1月24日(土)～2月22日(日) 26日間

展示点数 130点

入場者数 17,902人

〈日本画〉

1	浅井 忠	槐庭画帖	28	浅井 忠	パリ公園	1900~02
2	〃	槐庭時代手習	29	〃	男性裸像	1901
3	〃	大津絵 弁慶に釣鐘(絶筆)	30	〃	フォンテンブローの森	〃
4	〃	大津絵 塩くみ(絶筆)	31	〃	フォンテンブローの夕景	〃
5	〃	大津絵 金太郎(絶筆)	32	〃	西洋婦人	1901~02
6	黒沼 槐山	花鳥図	33	〃	西洋婦人	〃
7	〃	絵手本	34	〃	農婦	1902
			35	〃	小菊(図案)	1901~02
			36	〃	花(図案)	〃
			37	〃	花瓶2種(図案)	〃

〈洋 画〉

1	浅井 忠	女の顔(模写)	1876~78	38	〃	白樺(図案)	〃
2	〃	少女	1877	39	〃	農家	1902
3	〃	印旛沼	1878頃	40	〃	京都高等工芸学校の庭	1903
4	〃	風景(1)	〃	41	〃	奈良郊外	〃
5	〃	風景(2)	〃	42	〃	中沢岩太像	〃
6	〃	鍛冶橋	〃	43	〃	老母像	1906
7	〃	玉川	〃	44	〃	婦人像	1907
8	〃	沢入駅	1884	45	〃	帆船の図	〃
9	〃	溪流	〃	46	〃	かぶとの図	1902~07
10	〃	鎌倉	1885	47	〃	民家(1)	〃
11	〃	鎌倉建長寺(2)	〃	48	〃	民家(2)	〃
12	〃	曳舟通り	〃	49	〃	樹I	〃
13	〃	藁屋根	1887頃	50	〃	樹III	〃
14	〃	房州白浜	1887	51	〃	舟	〃
15	〃	房州白浜	1887頃	52	〃	大原女(図案)	〃
16	〃	房州乙浜村	1888	53	〃	春日野花瓶(図案)	〃
17	〃	房州波太村	〃	54	〃	風俗図(図案)	〃
18	〃	奈良	〃	55	〃	ダチョウ図(図案)	〃
19	〃	磐梯山の図	〃	56	〃	オットセイの図(図案)	〃
20	〃	小丹波村	1893	57	〃	簾笥図(図案)	〃
21	〃	平壌大同江煉光亭	1894	58	〃	大津絵III(図案)	〃
22	〃	金州城南門外	1894~95	59	フォンタネージ	牛を追う農婦	
23	〃	貔子窩第二軍司令部	〃	60	〃	木立	1868~72
24	〃	金州城壁上	〃	61	〃	池と樹木	1870~72
25	〃	旅順戦後の搜索	1895	62	〃	風景	1876~78
26	〃	漁婦	1897	63	〃	風景	〃
27	〃	母の肖像	1899	64	足立 源一郎	あは田	1907

常設収蔵作品展

65	石井 柏亭	病児	1904	3	浅井 忠	向付皿	1902~07
66	〃	真間の入江	〃	4	〃	急須A	〃
67	〃	冬の朝 (行徳)	1909				
68	石川 欽一郎	水辺					
69	伊藤 快彦	林檎		1	「草書千字文」の表紙		
70	梅原 龍三郎	伊豆大仁風景	1929	2	「謝恵連雪賦」の表紙		
71	小川 千甕	港		3	1号スケッチブック		
72	加藤 源之助	秋の山	1908	4	2号スケッチブック		
73	河合 新蔵	春の日	1912頃	5	3号スケッチブック		
74	黒田 重太郎	浴後	1927	6	4号スケッチブック		
75	榎原 一広	収穫	1918	7	5号スケッチブック		
76	桜井 忠剛	バラ		8	6号スケッチブック		
77	澤部 清五郎	桜		9	7号スケッチブック		
78	田中 善之助	出町	1906	10	8号スケッチブック		
79	田中 志奈子	デッサン (簾をもつ女)	1905	11	「筑波日記」		
80	塚本 靖	グレーの古城址		12	「投影画法」		
81	〃	グレー風景		13	『A Pictorial Museum of Japanese Manners and Customs』 20全43図、1884年刊		
82	〃	ロワン河畔		14	『従征画稿』全4冊 1895年刊 春陽堂・信陽堂		
83	都鳥 英喜	男の顔	1908	15	「欧州日記・附巴里日記」		
84	〃	海浜風景	1909	16	「欧州日記別冊」		
85	中林 優	けしの花		17	滯欧時代使用手帳		
86	長谷川 良雄	下鴨	1915頃	18	自筆絵葉書 6枚		
87	間部 時雄	田園風景	1906	19	『月瀬紀行・薰世界』1905年刊 芸艸堂		
88	安井曾太郎	デッサン (裸婦)	1907	20	『吉野紀行・錦世界』1908年刊 吉川弘文館		
89	和田 英作	塚本靖肖像	1901	21	『当世風俗五十番歌合』1907年刊 芸艸堂		
90	〃	自筆絵葉書 6枚		22	『当世風俗五十番歌合』下絵 4点		
				23	武士の山狩下絵 1905年 紙・墨		
				24	武士の山狩下絵 1905年 紙・墨		
				25	『黙語会誌』		
				26	『黙語会会員簿』		
				27	『十六日会誌』		
				28	『木魚遺響』黙語会編 1909年刊 芸艸堂		

〈彫 刻〉

1	新海 竹太郎	老馬	1921
---	--------	----	------

〈工 芸〉

1	浅井 忠	絵皿 (鳳凰)	1901
2	〃	農家風俗画手塙皿	1902~07

「植物の表現」

日本画・洋画・工芸・版画の各分野の作家による、植物をテーマにした作品を紹介した。

会期 平成10年2月28日(土)～3月22日(日) 20日間
 展示点数 64点
 入場者数 8,669人

〈日本画〉

1 富取 風堂	秋の草	1943	22 鳩川 誠一	ひまわり	1950
2 "	夕顔	1951	23 "	花	1965
3 "	花	1953	24 "	ライラックと蝶	"
4 "	花籠	1954	25 原 勝郎	樹	1955
5 "	初秋	1955	26 溝口 七生	高原の樹々	1975
6 "	晩秋	"	〈工芸〉		
7 "	花	1957	1 秋山 逸生	薔薇山象嵌額	1966
8 "	雨の花	1963	2 上野 賦郎	草花図染色屏風	
9 "	麦秋	1971	3 "	郊外秋景染色屏風	
10 "	初夏	1972	4 香取 秀真	菊文釜	
11 "	うすれ陽	1975	5 神谷 紀雄	鉄絵銅彩椿紋壺	1987
12 "	山桜と民家		6 "	鉄絵銅彩葡萄紋大鉢	"
			7 川上 祥三郎	釉彩草文大皿	1984
			8 信田 洋	透彫菖蒲文簪	
			9 深澤 範子	今日も明日も	1983
			10 藤田 喬平	飾簪・しだれ桜	1985
			11 二口志保子	緑の頃	1961
			12 宮之原 謙	牡丹文盛上水指	1935頃
			13 "	白磁四方百合象嵌大皿	"
			14 "	盛上磁葡萄唐草壺	1943
			15 "	彩地盛連葉文壺	1955頃
			16 山室 百世	鑄銅朝陽	1951
			17 "	鑄銅芽花瓶	1955
			18 横山 朝陽	草花文搔落花瓶	
			19 "	牡丹紋搔落壺	

〈洋画〉

1 浅井 真	林	1942~43	9 深澤 範子	今日も明日も	1983
2 "	梅林	1948	10 藤田 喬平	飾簪・しだれ桜	1985
3 "	唐松林	1963	11 二口志保子	緑の頃	1961
4 "	新緑の雜木林	"	12 宮之原 謙	牡丹文盛上水指	1935頃
5 "	晩秋	1971	13 "	白磁四方百合象嵌大皿	"
6 安藤 信哉	蓮	1977	14 "	盛上磁葡萄唐草壺	1943
7 石橋 武治	並木の道	1952	15 "	彩地盛連葉文壺	1955頃
8 板倉 鼎	金魚	1928	16 山室 百世	鑄銅朝陽	1951
9 大久保 作次郎	丘上の鐘楼	1930頃	17 "	鑄銅芽花瓶	1955
10 岸畑 久吉	壺と花	1913	18 横山 朝陽	草花文搔落花瓶	
11 小堀 進	花と海	1974	19 "	牡丹紋搔落壺	
12 小柳 吉次	叢	1984	〈版画〉		
13 櫻田 精一	冬の並木道	1965	1 東山 魁夷	「リトグラフィ集『冬の詩』」より枯野	1979
14 白滝 幾之助	鶯		2 "	「リトグラフィ集『冬の詩』」より冬樹	"
15 十亀 広太郎	池	1950	3 "	「リトグラフィ集『冬の詩』」より湖岸	"
16 椿 貞雄	牡丹	1920	4 "	「リトグラフィ集『冬の詩』」より冬華	"
17 "	黒壺に椿一輪	1948	5 星 襄一	王の樹	1976
18 鶴田 吾郎	小鳥たち	1965	6 "	枝繁る(赤)	1978
19 "	山神	1967	7 "	陽(林)	"
20 都鳥 英喜	洛北の早春	1934			
21 "	村の道	1942			

「彫刻」

現代日本具象彫刻展の招待作家や受賞作家の作品を中心に紹介した。

会期 平成10年2月28日(土)～4月12日(日) 38日間

展示点数 26点

入場者数 13,150人

1	大須賀 力	或るポーズ	1988	15	綿引 道郎	詩人一生を見つめて	1991
2	神野 義衛	呻	1972	16	笠原 鉄明	帰る日	1993
3	佐藤 忠良	ラップ帽	1982	17	伴 正史	人「無言」	1997
4	長谷川 昂	花の国の母神	1961	18	澤田 志功	森は観つめる	1995
5	”	砂あそび	1997	19	頼 永興	心海悠遊	1997
6	舟越 保武	婦人像	1985				
7	山本 正道	ヴァージニア	1979			野外展示作品	
8	六崎 敏光	香風	1984	1	大須賀 力	椅子の女	1975
9	鈴木 実	存在する私	1977	2	高田 大	リラックス	1984
10	柳原 義達	風の中の鳩	1984	3	三木 俊治	行列	1985
11	浦野 八重子	生きるということ	1987	4	零駒 無藏	過ぎし日のアパート	1989
12	山崎 猛	木馬の詩	1984	5	”	集う人々の列に……	1991
13	南部 治夫	時の流れに……(相)	1989	6	田中 育	草枕の旅	1993
14	工藤 健	愁いのマンドーラ	1991	7	中岡 慎太郎	“FANTASY”	”

「マルク・シャガール展」

会 期 平成9年5月3日(土)～
6月22日(日)

44日間
展示点数 228点
入場者数 25,311人

20世紀最高の芸術家の一人であると言われているマルク・シャガールは、「サーカス」や「恋人たち」などをモチーフとして、奔放な想像力と華麗な色彩感覚に導かれながら、詩情あふれる幻想的な作品を描いた。ロシア革命に参加し、その後フランスに渡り、第二次世界大戦時にはアメリカに逃れるという波乱の生涯であったが、制作に対する情熱は終生衰えることなく数多くの名作を生み出した。

本展覧会では、「愛の賛歌」等5つのテーマ構成により、油彩画、グワッシュ等47点のほか、シリーズ版画の傑作を含む合計228点の作品により、ほぼ一世紀にわたるシャガールの画業を紹介した。

I. サーカス

〈油彩／グワッシュ〉

1 大サーカス	1956
2 赤と青のサーカス	1969-73
3 サーカスの情景	1977
4 グランド・パレード	1979

〈リトグラフ〉

サーカス(全38点)	1967
5 「サーカス」より	
6 「　　」より	
7 「　　」より	
8 「　　」より	
9 「　　」より	
10 「　　」より	
11 「　　」より	
12 「　　」より	
13 「　　」より	
14 「　　」より	
15 「　　」より	
16 「　　」より	
17 「　　」より	
18 「　　」より	

19 「サーカス」より	
20 「　　」より	
21 「　　」より	
22 「　　」より	
23 「　　」より	
24 「　　」より	
25 「　　」より	
26 「　　」より	
27 「　　」より	
28 「　　」より	
29 「　　」より	
30 「　　」より	
31 「　　」より	
32 「　　」より	
33 「　　」より	
34 「　　」より	
35 「　　」より	
36 「　　」より	
37 「　　」より	
38 「　　」より	
39 「　　」より	
40 「　　」より	
41 「　　」より	
42 「　　」より	



特別展

Ⅱ.愛の讃歌

〈油彩〉

43 恋人たちと花束	1935~36
44 天使と恋人たち	1956
45 水浴する人々と花束	1960
46 光の中の花	1973
47 村の上のカップル	1967~68
48 パリの空の恋人たち	1974
49 赤と黄を背景にした群像	

〈リトグラフ〉

ダフニスとクロエ(全42点)	1957~60
50 「ダフニスとクロエ」扉絵	
51 ラモオンによるダフニスの発見	
52 ダフニスによるクロエの発見	
53 ラモオンとドリュアスの夢	
54 狼を捕らえる罠	
55 泉のほとりのダフニスとクロエ	
56 小牧場の春	
57 クロエの判断	
58 クロエの接吻	
59 ドルコオンの策略	
60 真昼、夏	
61 つばめ	
62 ドルコオンの死	
63 ニンフたちの洞穴	
64 ブドウの収穫	
65 フィレータースの教え	
66 メテュムナの若者たち	
67 ダフニスの夢とニンフたち	
68 フィレータースの果樹園	
69 クロエの誘拐	
70 ブリュアクシス将軍の夢	
71 小鳥狩り	
72 ニンフたちへの捧げ物	
73 牧神パンの饗宴	
74 シュリンクスの伝説	
75 冬	
76 ドリアス家での食事	
77 春	
78 ダフニスとリュカイニオン	
79 夏の季節	
80 死せるイルカと三百エキュ	
81 クロエ	
82 木精	
83 果樹園	
84 荒らされた花々	

85 ダフニスとグナトオン
86 ディオニソファネスの到来
87 クリアリストエに着物を着せられ 髪を結ってもらうクロエ
88 バッカス神の物語と神殿
89 祭の間に娘を見出すメガクレエス
90 ニンフたちの洞穴での婚礼の祝宴
91 結婚

Ⅲ.神話の中の英雄と動物たち

〈油彩／水彩／グワッシュ〉

92 鶏と恋人たち	1947~50
93 恋人たちと山羊と鶏と花	
94 森のなかの狼と雌羊	

〈リトグラフ〉

オデュッセイア(全43点)	1974~75
95 第1巻口絵	
96 神々の集い	
97 テレマコスの船を導く女神アテナ	
98 女神アテナへの捧げ物	
99 メネラオス王の館での饗宴	
100 プロテウス	
101 悲嘆にくれるユリシーズ	
102 ナウシカの前のユリシーズ	
103 アルシノースの王の館	
104 アレスとアフロディーテ	
105 女神アテナと馬	
106 私がユリシーズだ	
107 ポリュフェモス	
108 エオレ	
109 キルケー	
110 エルペーノールの亡靈	
111 ティティオス	
112 ジジフォス	
113 波にのまれたユリシーズ	
114 セイレン	
115 第2巻口絵	
116 アルシノースの館のユリシーズ	
117 乞食に変装したユリシーズ	
118 ユリシーズとエウマイオス	
119 ユリシーズと仲間たち	
120 アテナとテレマコス	
121 前兆 大鷹と鳩	
122 ユリシーズの正体が現れる	
123 ポセイドン	
124 求婚者達の饗宴の準備	

- 125 ユリシーズとイロスの戦い
- 126 ユリシーズとエウルクレイア
- 127 ユリシーズを眠らせるアテナ
- 128 予言者テオクリメノス
- 129 ペネローペとユリシーズの弓
- 130 ユリシーズの弓
- 131 求婚者達の虐殺
- 132 ユリシーズとペネローペ
- 133 祝宴
- 134 ユリシーズの寝台
- 135 地獄へ
- 136 エウピテス
- 137 回復した平和

IV. 神への祈り

〈油彩／アクリル／グワッシュ〉

- | | |
|----------------|-------|
| 138 お告げ | 1930頃 |
| 139 恋人たちと黄色い天使 | 1981 |
| 140 捧げもの | |

〈リトグラフ〉

- | | |
|--|------|
| 出エジプト記の物語(全24点) | 1966 |
| 141 「出エジプト記の物語」口絵 | |
| 142 それからファラオの娘はゆりかごを開き、ひとりの男の子がいるのを見た。 | |
| 143 月日を経て成長したとき、モーゼは同胞のところに戻り、かれらの負担を見た。 | |
| 144 それから主の使いは芝のなかに炎となって彼に現れた。彼は見た。芝は焼きつくされなかった。 | |
| 145 彼が大地に杖を投げると、杖は蛇と化し、モーゼは逃げた。 | |
| 146 それから主はアロンに言わされたー「行って荒野にいるモーゼに会いなさい。」彼は行って神の山でモーゼに会い、彼に口づけした。 | |
| 147 かくしてモーゼとアロンはいき、イスラエルの支族のすべての長老たちを集めた。 | |
| 148 それからモーゼとアロンはともにファラオに会いにいった。「主はこのように私に語られたのです。私の民を出発させて下さい。」 | |
| 149 それからモーゼは彼の手を天に向かってさし伸べた。すると深い暗闇がエジプト全土をおそった。 | |
| 150 それからモーゼは彼の手を海の上にさし伸べた……すると海の水は逆流し、 | |

- 戦車や騎兵、ファラオのすべての軍隊を沈めた。
- 151 そしてアロンの姉、女預言者のミリアムはタンバリンを手に取り、打ち鳴らした。全ての女たちは踊りながら彼女についていった。
- 152 そしてあなたは岩に触れなさい。そうすれば私の民が飲むことのできる水が沸き出るだろう。
- 153 それからアマレクが来て、イスラエルとレビデムで戦った。そしてモーゼはヨシュアに言った。「男たちを選び、行ってアマレクと戦いなさい。」
- 154 それからモーゼは長老たちを呼び、主が彼に命ぜられたことにかれらを従わせた。
- 155 あなたはアロンと彼の息子たちに聖油を注ぎ、かれらが聖殿において私に仕えることができるようになさい。
- 156 神は彼に2枚の律法の板、神の指で刻まれた石の板を与えた。
- 157 それから人々は金の耳飾りをアロンに持つて、彼はこれをかれらの手から受け取った。アロンはこれを溶かし金の子牛を作った。
- 158 モーゼの怒りは激しく、彼は2枚の板を山のふもとでくだいた。
- 159 モーゼは2枚の板の上に契約の言葉と同じ十戒を書いた。
- 160 それからモーゼはイスラエルの子供たちを集めてかれらに言った。「ここに主の御言葉がある。あなた方はこれに従わなければならない。」
- 161 ベザレルは2つの金のケルビムを作った。このケルビムは翼を広げ、互いに向かい合っていた。同様に純金の燭台を作った。
- 162 かれらはまた、主が命ぜられたようにかれらの司祭の聖所で祭司のつとめをするための聖なる服を作った。
- 163 そしてモーゼはかれらの仕事を見た。彼はかれらが主の命令のとおり仕事をしているのを見て、かれらを祝福した。
- 164 イスラエルの支族の眼前には、昼間の幕屋の上に主の雲があり、夜は雲のなかに火があった。かれらの旅の間はいつもそうだった。

特別展

V.芸術家たち

〈油彩／テンペラ〉

- | | |
|--------------|---------|
| 165 夢 | 1939~44 |
| 166 ヴァイオリン弾き | 1975 |
| 167 想い出 | 1978 |
| 168 パリの画家 | |

- | |
|-------------|
| 197 「ポエム」より |
| 198 「」より |
| 199 「」より |
| 200 「」より |
| 201 「」より |
| 202 「」より |

特別出品

〈腐食銅版画〉

悪童たち(全10点)

- | |
|--------------|
| 169 「悪童たち」より |
| 170 「」より |
| 171 「」より |
| 172 「」より |
| 173 「」より |
| 174 「」より |
| 175 「」より |
| 176 「」より |
| 177 「」より |
| 178 「」より |

1958

〈タピスリー〉

- | |
|--------|
| 203 生命 |
|--------|

1989

特別展示コーナー

〈油彩／グワッシュ／その他〉

- | | |
|------------------------|---------|
| 204 パイプを持つ男 | 1910 |
| 205 花束 | 1911 |
| 206 軽業師達 | 1911~12 |
| 207 黄色い家と屋根の上のロバ | 1938頃 |
| 208 聖なるチャペル | 1953 |
| 209 ヴァンスの新月 | 1955~56 |
| 210 パリの大音楽祭 | 1957 |
| 211 海岸のユリの花 | 1959~68 |
| 212 サーカスの喜び | 1968~69 |
| 213 花束と抱き合う恋人達 | 1972 |
| 214 パリの空 | 1975 |
| 215 村 | 1977 |
| 216 旅装の人々 | 1978 |
| 217 2つの花束を持って抱き合っている夫婦 | 「 |
| 218 花束を手にする娘 | 「 |
| 219 多色の村 | 1979 |
| 220 サーカスの夫婦 | 1980 |
| 221 村の生活 | 「 |
| 222 サーカス | 「 |
| 223 アクロバット | 1981 |
| 224 サーカスの音楽師 | 「 |
| 225 村の広場 | 1983 |
| 226 サーカス | 「 |
| 227 結婚式 | |
| 228 ヴァンスの婦人 | |

〈木版画〉

ポエム(全24点)

1968

- | |
|-------------|
| 179 「ポエム」より |
| 180 「」より |
| 181 「」より |
| 182 「」より |
| 183 「」より |
| 184 「」より |
| 185 「」より |
| 186 「」より |
| 187 「」より |
| 188 「」より |
| 189 「」より |
| 190 「」より |
| 191 「」より |
| 192 「」より |
| 193 「」より |
| 194 「」より |
| 195 「」より |
| 196 「」より |

「小堀進展」

会期 平成9年9月6日(土)～
10月12日(日)

32日間

展示点数 120点

入場者数 7,527人

小堀進は洋画界における水彩画の地位向上を目指して水彩連盟を結成、その中心的な存在として活躍した。戦後は日展への出品を中心に制作を続け、優れた現代感覚を生かして創意を重ね、日本芸術院賞を受賞。さらに水彩画の発展に寄与した功績が認められ、水彩画家として初めて日本芸術院会員になった。

本展では、水彩という素材を愛し、その表現力の追求に意を注ぎ、昭和の水彩画にひとつの典型を確立した小堀進の芸術と業績を顧みた。



1 真夏の海 (太海)	1931	26 大正池	1952
2 画室の一隅	1932	27 奈良公園	1953
3 高原	1933	28 海辺	〃
4 川原湯風景	1934	29 海 (白浜)	1954
5 風の日の海辺	1935	30 朝陽 (霞ヶ浦)	1955
6 冬晴の果樹園	1936	31 美ヶ原高原	〃
7 漁村	1937	32 水門	
8 海	〃	33 大島風景	1956
9 高原の七夕祭	1938	34 花と雲	〃
10 隅田川風景	〃	35 芽吹く頃	〃
11 陶窯	1939	36 三原山	1957
12 遊覧船	〃	37 霞ヶ浦	〃
13 初秋	1940	38 砂丘	1958
14 太平洋の漁村	1941	39 夜明け	〃
15 初秋水郷	1942	40 夕照 (霞ヶ浦)	1959
16 麗夏	1943	41 噴煙	〃
17 驚雨	1947	42 夕照	〃
18 水辺	1948	43 翔雲	1960
19 春		44 海 (大島)	
20 高原 (蓼科)	1949	45 丘	1960
21 球磨川の雨	1950	46 溪流	1960頃
22 高原	1951	47 鹿島灘	1961
23 杏花	1952	48 晴日	〃
24 長崎風景	〃	49 山湖	1962
25 山麓	〃	50 山	〃

特 別 展

51	南欧の丘	1962	86	錦秋	1971
52	ブロニューの森	〃	87	白い雲	1971頃
53	レマン湖畔	〃	88	オホーツクの海	〃
54	城壁と民家	〃	89	海	〃
55	5月の頃	1963	90	霞ヶ浦	1972
56	エッフェル塔	〃	91	筑波遠望	1972頃
57	南欧の海	〃	92	初島(熱海)	
58	パリーの丘	〃	93	晴日	1973
59	セーヌ川	〃	94	霞ヶ浦	〃
60	トレド遠望	1964	95	山麓	〃
61	ナポリ夕照	〃	96	球磨川	〃
62	ベニス	〃	97	新緑の山	〃
63	オンフルール	〃	98	花と海	〃
64	ロンドンの朝	〃	99	北アルプス	
65	雨後の山	〃	100	霞ヶ浦(夕照)	1973頃
66	晨峯	〃	101	山(根子岳)	1974
67	山	1965	102	山	〃
68	山(曇る乗鞍)	〃	103	晨	〃
69	海(男鹿)	1966	104	逆光	〃
70	霞ヶ浦夕映	〃	105	花と海	〃
71	朝の海	1967	106	那須高原	1974頃
72	沖縄の海	〃	107	大穹	1974
73	秋の山	1968	108	虹	〃
74	水郷	〃	109	ナポリ	1962
75	爽秋	〃	110	セベリア	〃
76	駒ヶ岳(箱根)	1968頃	111	トレド	〃
77	初秋	1969	112	白嶺(鹿島槍)	1969
78	犬吠埼	1970	113	那須	〃
79	霞ヶ浦	〃	114	房総の海	1970
80	かげる山	〃	115	水郷	〃
81	風景(札幌郊外)	〃	116	サロマ湖	1971
82	雪のある山	〃	117	石狩の海	〃
83	大雪山	〃	118	砺波のチューリップ	1972
84	花と山	1971	119	山湖(青木湖)	〃
85	青い空		120	北陸の海	〃

—21世紀への飛躍— 「第7回現代日本具象彫刻展」

会期 平成10年1月24日(土)～
2月22日(日)
26日間
展示点数 52点
入場者数 17,902人

第7回現代日本具象彫刻展は、21世紀への飛躍をテーマに、具象作家に対し作品発表の場をつくり、現代の具象彫刻界の発展に寄与するとともに、県民に優れた彫刻作品を鑑賞する機会を提供するため開催するものである。

第7回展では、国内外より143点の作品が寄せられ、審査の結果、大賞1点、優秀賞2点、入選49点の計52点が選ばれた。

審査員 加藤貞雄、○嘉門安雄、建畠 哲、富山秀男、本間正義、三木多聞、山梨俊夫

(50音順)○は審査会長

〈大賞〉

1 伴 正史 (長野) 人「無言」

〈優秀賞〉

2 澤田 志功 (埼玉) 森は観つめる

3 賴 永興 (台湾) 心海悠遊

〈入選〉

4 阿部 佳代 (徳島) オレンジなとき

5 井上 麦 (山梨) 地表より-VoiceofForest-

6 植木 孝二 (神奈川) 家族の像

7 王 慶臺 (台湾) 座り

8 大国 丈夫 (千葉) のびをする石

9 大阪 健 (茨城) 刻風

10 岡野 重義 (千葉) 静止した時間

11 岡本 鎌二 (〃) 時代

12 萩野 弘一 (新潟) 村祭り

13 生越 麻紀子 (神奈川) 会社員

14 小田 明広 (茨城) 森にいた夜

15 勝野 真言 (埼玉) 裡からの跡・'97

16 加藤 裕之 (東京) やさしさとよさと

17 鎌塚 昌代司 (秋田) ジンテーゼー三つの扉—

18 神谷 瞳代 (千葉) Composition I "Woman"

19 川崎 文雄 (神奈川) 遠き星の記憶

- 20 北沢 努 (茨城) Monument
21 栗山 勉 (兵庫) 変幻するメルヘン
22 小林 豊 (愛知) 耀
23 齋藤 健昭 (北海道) 蟬・新生
24 酒本 雅行 (千葉) 爪のあるかたち
25 笹川むもん (富山) 垣間見える本質と空洞
26 指田 竹房 (千葉) サーカスの道化
27 佐藤 守男 (神奈川) 忘却
28 椎名 良一 (千葉) ふたり
29 鈴木武右衛門 (東京) 雲門
30 鈴木麻里香 (〃) 祈り
31 高田 大 (神奈川) ある日の事件
32 露口 幾也 (徳島) 風の中で
33 豊田 洋次 (東京) 豊饒を祈るクレオール
34 西川 淑雄 (〃) トルソ (Composition 93)
35 西野 慎二 (奈良) 穏やかな日
36 西巻 一彦 (神奈川) M Y葉浮巣ユラユラ
37 西村 文男 (埼玉) あかね雲 (沐浴)
38 野村 博満 (福井) 存在の形
39 葉栗 剛 (愛知) 「オレ達ミュージシャン!」
40 波多野 泉 (沖縄) animal eyes
41 早川 荣二 (千葉) ハッカイ
42 菱山 裕子 (東京) いふことがあった日いないいばあ
43 一鍬田 徹 (広島) 65番目の夢



企画展

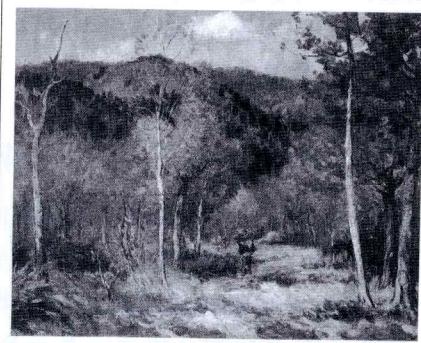
- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 44 前田 忠一 (東京) 夜明け前 | 49 森田 雅己 (佐賀) 新しい季節 |
| 45 三島 喜一 (千葉) たたずみ | 50 矢野 真 (千葉) 私風景-0810 |
| 46 南島 隆 (東京) あの夏 | 51 山本 明良 (東京) 人の樹 |
| 47 宮城島隆夫 (静岡) トトナカの少女 | 52 吉田 拓也 (神奈川) 埋もれる人 |
| 48 村上 博史 (神奈川) 大地の収穫 | |

「第21回千葉県移動美術館」

会 場 1 東金文化会館
2 ふれあいプラザさかえ
会 期 1 平成9年11月12日(水)～
11月23日(日)
2 平成9年11月27日(木)～
12月6日(土)

展示点数 各33点
入場者数 1 490名
2 1,093名

本館以外でも、優れた作品が鑑賞できる機会を提供するため、本館収蔵作品を中心に、第49回千葉県美術展覧会(県展)の受賞作品を一部加えた移動展覧会を県内2地域において開催した。



第21回 千葉県移動美術館

平成9年11月12日～11月23日 平成9年11月27日～12月6日
開館時間 午前10時～午後4時30分 開館時間 午前9時～午後4時
休館日 11月17日(月) 休館日 12月1日(月)
東金文化会館 東金市八幡台1-2107-3 TEL0475(55)6211 ふれあいプラザさかえ
印旛郡栄町安食938-1 TEL0476(95)1112
主催 千葉県立美術館・東金市教育委員会・栄町教育委員会

〈日本画〉

1 島多 誠郎	秋趣	1966
2 高畠 郁子	メスティーソの女達	1977
3 渡辺 阿以湖	牡丹	1986
4 渡辺 学	下総の海女	1982頃

〈工芸〉

1 秋山 逸生	菱華文象嵌長手箱	1946
2 香取 秀真	笑獅子香炉	
3 津田 信夫	鳳翔薰炉	1937
4 土肥 刀泉	釉彩両耳花瓶	1967頃

〈洋画〉

1 浅井 忠	婦人像	1907
2 浅井 真	伊那	1970
3 安藤 信哉	パリの窓	1962
4 石橋 武治	水辺初夏	
5 大野 隆徳	裸婦	1933
6 櫻田 精一	太海	1952
7 篠崎 輝夫	トルファン閑日	1996
8 鶴田 吾郎	水温む	1968
9 都鳥 英喜	八瀬の秋	1929
10 原 勝郎	京橋	1955
11 前嶋 實	九十九里初夏	1988

〈書〉

1 浅見 喜舟	檜 橩	1970頃
2 小暮 青風	一閑人	1990
3 高澤 南総	桃李争妍	1970
4 高宮 金陵	山部赤人歌	

〈版画〉

1 池田 満寿夫	Something 1	1966
2 浜口 陽三	赤い鉢と黒いさくらんぼ	〃
3 深沢 幸雄	アシェンダの地下にて	1980
4 星 襄一	星の森(大)	1971

第49回千葉県美術展(県展) 出品作品

1 高木 弥生	座る女(日本画・県展賞)	1997
2 伊能 和子	マネキン(洋画・県展賞)	〃
3 田中 恵康	唐詩二首(書・県展賞)	〃

〈彫刻〉

1 大須賀 力	或るポーズ	1988
2 高村 光太郎	裸婦座像	1910頃
3 毛利 教武	手	1919

普 及 事 業

美術講演会を、展覧会に併せ2回開催した。

また、〈浅井忠の足跡と近代絵画の流れ〉をテーマに「教養講座とヨーロッパの旅」を実施し、この講座に関連してヨーロッパの旅を実施した。

さらに、特別展「小堀進展」会期中に、ミュージアムコンサート「ハープ三重奏による名曲の調べ」を開催した。

実技講座は、日本画、洋画、彫刻(木彫)、陶芸、金工、書、版画の7種7講座(延67日)を開催した。

図書は、78冊収集した。現在4,977冊を収蔵し、情報資料室において県民の利用に供している。

そのほか、博物館実習生の受入れ(7大学9人)や友の会による実技講座4種11講座(延62日)、美術鑑賞の旅等の事業に協力した。

■ 美術講演会

美術に対する関心や理解を一層深めるため、特別展に併せて講演会を実施した。

1回目の「シャガールの魅力」では、シャガールの生涯の活動を始め、会場に展示してある作品を中心に、表現された芸術の特徴など多彩な視点による講演が行われた。

2回目の「日本近代水彩画の中の小堀進」では日本近代水彩画の歴史と小堀進の作品及び画業について、エピソードなどを交えた幅広い内容の講演が行われた。

また、各講師ともスライドを用いて講演された。

1 5月31日(土)「シャガールの魅力」

島田 紀夫(実践女子大学文学部教授)197人

2 9月27日(土)「日本近代水彩画の中の小堀進」

金原 宏行(茨城県近代美術館企画課長)189人

(数字は参加者数)



■ ミュージアムコンサート

特別展「小堀進展」の開催に併せ、「ハープ三重奏による名曲の調べ」と題して、9月20日、ニューフィルハーモニーーオーケストラ千葉のメンバーによるコンサートを行った。

メンデルスゾーン(歌の翼に) やマスネ(タイースの瞑想曲)などのクラシックの名曲や、アーレン(虹のかなたに)などの現代のポピュラー曲を含む全19曲を演奏し、好評を得た。

〈演奏者・司会〉

本庄篤子(ヴァイオリン)／簡野瑞穂(ハープ)／
齐藤章一(チェロ)／中里かほり(司会)

参加者数 206人

■ 教養講座とヨーロッパの旅

本館では、昭和49年の開館以来、本県ゆかりの作家である浅井忠の作品を多数収集してきている。

浅井は、バルビゾン派の流れをくむイタリア人画家フォンターネージから洋画を学んだ後、渡欧し新たな画風の展開を示した。

この講座は、この浅井作品を理解するとともに、バルビゾン派やその他のヨーロッパ画家等について幅広く学ぶため実施するものである。

(数字は参加者数)

テーマ「浅井忠の足跡と近代絵画の流れ」

1 8月9日(土) 「浅井忠のヨーロッパ時代
—その画業と交友—」

前川 公秀(本館学芸課長) 112人

2 9月13日(土) 「バルビゾン派と風景画」

金田 雅成(本館学芸員) 76人

3 10月4日(土) 「19世紀ヨーロッパの絵画」

阿部 信雄(美術評論家) 94人

また、この教養講座に参加した受講者を中心に、フランスにおける浅井忠の足跡をたどるとともに、イギリス・ベルギー・オランダの代表的な美術館を訪ね、ヨーロッパ美術の理解を深めるため「ヨーロッパの旅」を実施した。

実施期間 11月14日(木)～11月23日(土)

参加者数 26名

主な訪問先

イギリス

ロンドン：大英博物館、ナショナル・ギャラリー、
テート・ギャラリー

ベルギー

ブルージュ：ブルージュ市内研修

オランダ

アムステルダム：ゴッホ美術館

フランス

フォンテンブロー：ミレー美術館、グレー村

パリ：モンマルトル、オランジュリー美術館、
オルセー美術館、ルーブル美術館、ベル
サイユ宮殿、セーブル陶磁器美術館

■ 実技講座

(1) 洋画講座

期　　日 平成9年5月13日(火)・14日(水)・
15日(木)・16日(金)・17日(土)・
20日(火)・21日(水)・22日(木)・
23日(金)

(9日間／うち講師の指導日数は5日間)

講　　師 羽生智樹氏

受講者数 27人

内　　容 着衣と裸婦をテーマにデッサン、構図、彩色など油彩画の基礎的技法を学んだ後、より幅広い表現について学習した。

(2) 日本画講座

期　　日 平成9年6月10日(火)・11日(水)・
13日(金)・14日(土)・17日(火)・
18日(水)・19日(木)・21日(土)・
22日(日)・24日(火)・25日(水)・
26日(木)

(12日間／うち講師の指導日数は7日間)

講　　師 棚橋文子氏

受講者数 23人

内　　容 花、果物、人物等のモチーフにより制作した。岩絵具、にかわ、筆、紙等の材料・用具の取り扱い方など基礎的な学習をした後、彩色の技法を中心で学習した。

(3) 陶芸講座

期　　日 平成9年7月1日(火)・2日(水)・
3日(木)・23日(水)・29日(火)・
30日(水)・31日(木)・8月26日(火)・
9月2日(火)

(9日間／うち講師の指導日数は5日間)

講　　師 鎌田和平氏

受講者数 37人

内　　容 信楽土を素材として、石こう型の技法によって花瓶、食器、茶碗などを制作した。また、染付や鉄絵の絵付けや、粘土、ろくろ技法、釉薬調合、窯詰めなどについても併せて学習した。

(4) 版画講座

期　　日 平成9年9月9日(火)・10日(水)・
11日(木)・12日(金)・13日(土)・
17日(水)・18日(土)・19日(日)・
20日(火)・24日(水)・25日(木)・
26日(金)

(12日間／うち講師の指導日数は7日間)

講　　師 増田陽一氏

受講者数 24人

内　　容 銅板、亜鉛板を素材に、凹版画の制作を行った。版画の材料や用具の取り扱い方、エッチングやアクワチントなどの各種技法や刷りの技術について学習した。

(5) 彫刻講座

期　　日 平成9年10月22日(火)・23日(水)・
25日(土)・26日(日)・28日(火)・
29日(水)・30日(金)・11月1日(土)・
2日(日)・5日(火)

(10日間／うち講師の指導日数は6日間)

講　　師 福永　巨氏

受講者数 19人

内　　容 米松を素材に、動物や人物、抽象形態など自由に制作した。のみやチエンソー等の各種工具類の取り扱い方を学び、木の彫刻技法の幅広い表現方法を学習した。

(6) 書講座

期　　日 平成9年12月2日(火)・3日(水)・
4日(木)

(3日間／うち講師の指導日数は3日間)

講　　師 宇津木雀聲氏

受講者数 28人

内　　容 漢字・かなの臨書を通して、書の歴史、書の味わい方、様々な表現方法を学習した。また、手紙やはがきの書き方など、実用書道も学習した。

(7) 金工講座

期　　日 平成10年2月12日(木)・13日(金)・
17日(火)・18日(水)・19日(木)・
20日(金)・24日(火)・25日(水)・
26日(木)・3月3日(火)・4日(水)・
5日(木)

(12日間／うち講師の指導日数は7日間)

講　　師 小林正利氏

受講者数 20人

内　　容 動物・人物・生物・風景など自由なテーマで銅板レリーフの制作を行った。脂台や各種タガネの製作や取り扱い方をはじめ、鍛金や彫金の基礎的技法、また金属の着色方法などについて学習した。

■ 第2回こども写生会

千葉県立美術館では、次代を担うこどもたちに、創作の喜びを体験してもらうとともに、美術館との触れ合いを通して、美術館活動に対する理解を深めてもらうため、写生と展示による「こども写生会」を開催した。

写生会 7月13日(日) 参加者数 92人
展覧会 7月29日(火)~8月3日(日)
表彰式 8月2日(土)

最優秀賞	習志野市立谷津南小学校 第4学年 大槻ゆか
優秀賞	四街道市立大日小学校 第1学年 川野真理香
"	習志野市立谷津南小学校 第2学年 鈴木まゆ
"	木更津市立金田小学校 第3学年 大村真実
"	船橋市立宮本小学校 第4学年 秋山晴菜
"	大網白里町立増穂北小学校 第5学年 高取飛鳥
"	成田市立平成小学校 第6学年 佐々木千陽
努力賞	船橋市立薬円台南小学校 第1学年 丸山祐貴
"	千葉市立桜木小学校 第2学年 志賀ゆりあ
"	大網白里町立増穂北小学校 第3学年 大木拓巳
"	佐倉市立根郷小学校 第3学年 沢田依里
"	佐倉市立根郷小学校 第4学年 谷 紗代里
"	八千代市立八千代台西小学校 第5学年 堀 千尋
"	市川市立国府台小学校 第6学年 矢野有美



■ 情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより、美術情報を提供した。なお、9年度の収蔵図書については78冊の寄贈を受け、美術情報資料の充実を図った。

分類別図書数

(平成10年3月31日現在)

区分	平成8年度まで	平成9年度	計
美術総記	1,499	25	1,524
絵画	1,450	34	1,484
彫刻	245	4	249
工芸	359	3	362
書	159	3	162
版画	127		127
デザイン・建築	76	1	77
写真・映像	177	3	180
その他	45		45
雑誌(合冊・復刻)	357		357
一般図書	405	5	410
合計	4,899	78	4,977

区分	平成8年度まで	平成9年度	計
購入図書	2,733		2,733
寄贈図書	2,166	78	2,244
合計	4,899	78	4,977

(展覧会図録を除く)

■ 活動協力

□千葉県立美術館友の会

1. 目的

“みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。

2. 組織

- (1) 会員数 個人会員575人 賛助会員1人
- (2) 役員 名誉会員10人 会長1人 副会長3人 監事2人 理事若干名

3. 事業

- (1) 友の会だより「しおさい」の発行、年4回。各1000部印刷し、会員に配付した。
- (2) 第21回葉美会展の開催

会期 平成9年9月30日(火)～10月5日(日)
出品者31人 展示点数67点

(3) 秋の美術鑑賞の旅

美術品や文化財を訪ねながら、親睦も深めるために実施した。

ア・日 時 10月17日(金)

イ・視察先 河鍋暁斎記念美術館

埼玉県立近代美術館

大宮市立漫画会館

山崎美術館と蔵造りの街並み

ウ・参加者数 45人

(4) 平成9年度 友の会実技講座

洋画入門講座(1)

期 日 4月24日(木)・26日(土)・27日(日)・30日(水)・
5月1日(木)・2日(金)(6日間)

講 師 根岸茂行氏

受講者数 39人

洋画入門講座(2)

期 日 5月29日(木)・30日(金)・31日(土)・
6月3日(火)・4日(水)・5日(木)(6日間)

講 師 渡辺 晋氏

受講者数 37人

洋画入門講座(3)

期 日 7月5日(土)・6日(日)・19日(土)・20日(日)・
26日(土)・27日(日)(6日間)

講 師 池田敏男氏

受講者数 34人

洋画入門講座(4)

期 日 8月22日(金)・23日(土)・24日(日)・
27日(水)・28日(木)・29日(金)(6日間)

講 師 御園正男氏

受講者数 15人

洋画入門講座(5)

期 日 9月2日(火)・3日(水)・4日(木)・5日(金)・
6日(土)・7日(日)(6日間)

講 師 松沢茂雄氏

受講者数 42人

洋画入門講座(6)

期 日 1月18日(日)・21日(水)・22日(木)・
25日(日)・29日(木)・30日(金)(6日間)

講 師 渡辺 晋氏

受講者数 34人

洋画入門講座(7)

期 日 3月7日(土)・8日(日)・10日(火)・12日(木)・
14日(土)・15日(日)(6日間)

講 師 根岸茂行氏

受講者数 33人

日本画入門講座

期 日 11月6日(木)・7(金)・8(土)・12日(水)・
13日(木)・14日(金)(6日間)

講 師 斎藤 悅氏

受講者数 22人

版画入門講座

期 日 12月12日(金)・13日(土)・14日(日)・
16日(火)・17日(水)・18日(木)(6日間)

講 師 生田宏司氏

受講者数 16人

デッサン入門講座(1)

期 日 8月2日(土)・3日(日)・5日(火)・6日(水)・
(4日間)

講 師 御園正男氏

受講者数 19人

デッサン入門講座(2)

期 日 2月5日(木)・7日(土)・14日(土)・15日(日)・
(4日間)

講 師 根岸茂行氏

受講者数 36人

(5)館事業への協力

館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。

(6)その他

テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵・図書等の販売

□博物館実習

各大学の依頼により、学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受け入れた。

平成9年7月23日(水)～7月29日(火)

(日曜日を除く6日間)

跡見学園女子大学1人、大阪芸術大学1人、御茶の水女子大学1人、学習院大学2人、女子美術大学大学院1人、千葉経済大学2人、東京工芸大学1人(計7大学、9人)

□ 貸出資料一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
松本秋美	aspettare	「奈良県現在絵画の発信 静中の動」	9.4/19~5/18 奈良県立美術館	奈良県立美術館
椿椿山	鶴頭遊蚕図	「山下青崖展—渡辺華山の系譜—」	9.4/26~5/25 古河街角美術館	古河街角美術館
浅井忠 石川欽一郎	溪流 水辺	「自然の美・生活の美 ージョン・ラスキンと近代日本」	9.5/3~6/28 ラスキンギャラリー 9.7.19~8.24 郡山市立美術館 9.8/30~10/5 神奈川県立近代美術館	ラスキンギャラリー 郡山市立美術館 神奈川県立近代美術館 東京新聞
椿 浅井 黒沼 津田 眞雄 忠 槐山 信夫	鴨図 あひる 花鳥図 鳥 鴨 子迷家鴨 銅製おしどり型香合	「鴨百話」	9.5/24~6/29 千葉県立大利根博物館	千葉県立大利根博物館
東山魁夷	秋深	「東山魁夷・季節の色」	9.7/5~9/28 東山魁夷アートギャラリー	市川市教育委員会
クールベ	眠る女	「揺れる女/揺らぐイメージ」	9.7/20~9/28 栃木県立美術館	栃木県立美術館
浅見喜舟	行書 千字文	「第45回記念 書星展」	9.7/30~8/4 東京都美術館	社団法人書星会
笛岡了一	放蕩息子の帰宅 孟母の家 山西	「笛岡了一展」	9.9/12~12/10(前期) 9.12/10~3/22(後期) 新津市美術館	(財)新津市文化振興財団
浅井忠	月瀬紀行 萱世界 吉野紀行 錦世界 新編自在画臨本 訂正浅井自在画臨本	「日本の版画 I・ 1900-1910.版のかたち百相」展	9.9/9~10/12 千葉市美術館 9.10.19~11.24 櫛形町立春仙美術館	千葉市美術館 櫛形町立春仙美術館
河村蜻山	長方皿・雨・風・晴 花瓶 桔梗文 茶托	「河村蜻山作品展」	9.10/10~10/20 あびこ市民プラザ	我孫子市長
増村益城	波文乾漆盛器	「増村益城展—漆の美・塗の造形」	9.9/27~11/16 東京国立近代美術館工芸館	東京国立近代美術館
斎 香 津 田 秀 信 真 夫	BIRDS 鳩香爐 北辺夜猫子	「鳥—飛翔と静穏の美」	9.10/1~9.11/16 式年遷宮記念神宮美術館	式年遷宮記念神宮美術館
山谷鉄一	嵐	「米寿記念 山谷鉄一油絵展」	9.10/21~10/26 千葉市美術館	山谷鉄一
大森運夫	灯翳 時空往還	「大森運夫展」	9.11/13~11/30 桜ヶ丘ミュージアム	豊川市地域文化広場
太田洋三	雨上がりの街 中央構造線風景	「太田洋三自選展」	9.11/29~12/7 市川市文化会館	太田洋三
中西利雄	トリエール・シュール・セーヌ 南仏風景 人物 外房風景 四人の女 暁り日の離宮と駅	「没後50年記念 水彩画の革新者 中西利雄」展	9.12/13~10/2.1 茨城県立近代美術館 10.2.4~2.22 小田急美術館	茨城県立近代美術館 小田急美術館
石井柏亭	晩春行楽図	「人とヒト展」	10.1/17~2/22 刈谷市美術館	刈谷市美術館
岸田劉生 安井曾太郎	霧れたる冬之日 熱海附近	「道一歌会始御題にちなみ」	10.1/21~3/8 式年遷宮記念神宮美術館	式年遷宮記念神宮美術館
松澤茂雄	海辺の裸婦	「市原ゆかりの作家展」	10.2/8~2/15 サンプラザ市原	市原市教育長
河合新蔵 大下藤次郎	春の日 竹林図 久々子湖	「中川八郎とその時代展」	10.2/21~3/22 愛媛県立美術館	愛媛県立美術館
石井林響	木華開耶姫	「近代のやまと絵 ~古典美の再発見~」	10.2/24~4/4 岐阜県美術館	岐阜県美術館
椿 富 眞 取 風 堂	八重子像 游鯉 其一 游鯉 其二	「近代日本美術の軌跡」	10.3/24~5/10 東京国立博物館	東京国立博物館

調査・収集事業

展覧会企画や資料収集等に関連して、調査研究を進めた。資料収集については、洋画7点、彫刻3点、工芸7点、書13点、研究資料5点を新たに収藏した。

その他、基金により洋画1点を取得した。

■ 収蔵資料 (寸法は、平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行で表示。) (単位はcm 番号に○印のあるものは購入。)

〈洋画〉

① 浅井 忠	巴里婦人 明治35年(1902)～明治40年(1907)頃 紙・墨 20.0×17.5	⑤ 染川鉄之助 青銅石の目 青銅・鋳造 7.0×13.3×12.5
② 遠藤健郎	我は海の子 平成9年(1997) キャンバス・油彩 97.0×130.0	⑥ 津田信夫 茶碗 陶器 7.0×13.5
③ 遠藤健郎	房総線ディーゼル・カーの乗客たち 平成9年(1997) キャンバス・油彩 97.0×145.0	⑦ 西大由 青銅小壺 青銅・鋳造 3.5×22.0×19.0
4 小堀 進	川原湯風景 昭和9年(1934) 紙・水彩 52.0×65.0	〈書〉
5 小堀 進	太平洋の漁村 昭和16年(1941) 紙・水彩 66.0×100.0	1 今関脩竹 山峡の水 昭和39年(1964) 紙・墨・屏風(2曲1隻) 各139.0×69.5
6 小堀 進	渓流 昭和35年(1960)頃 紙・水彩 52.0×90.0	2 今関脩竹 秋花 昭和44年(1969) 紙・墨 24.5×39.0
⑦ ラヴィ工	モレスティルの谷 キャンバス・油彩 28.5×35.5	3 今関脩竹 石山 昭和48年(1973) 紙・墨 101.0×67.0
		4 今関脩竹 白雪 昭和58年(1983) 紙・墨 69.5×129.5
		5 今関脩竹 若草山 昭和61年(1986) 紙・墨 69.0×136.0

〈彫刻〉

① 澤田志功	森は観つめる 平成7年(1995) ポリエスチル・鉄 140.0×150.0×90.0	6 今関脩竹 左千夫の歌 昭和63年(1988) 紙・墨 134.0×51.0
② 伴正史	人「無言」 平成9年(1997) 木 200.0×150.0×100.0	7 岩波白鵬 陶淵明詩三首 平成9年(1997) 紙・墨 177.5×94.5×2面
③ 賴永興	心海悠遊 平成9年(1997) 木 167.0×130.0×90.0	8 小川瓦木 古代人からのメッセージ5 平成9年(1997) 紙・墨 279.0×192.0

〈工芸〉

① 飯塚小玕斎	掛花籠 竹 2.0×16.5×12.0	9 小川瓦木 古代人からのメッセージ8 平成9年(1997) 紙・墨 192.0×279.0
② 板谷波山	香炉 磁器 6.5×8.1	10 千代倉桜舟 心・翔・宙 平成7年(1995) 紙・墨・屏風(2曲1隻) 177.5×94.5
③ 加藤土師萌	酒瓶 昭和17年(1942) 陶器 4.5×39.0×3.7	11 千代倉桜舟 愛・焰・夢 平成9年(1997) 紙・墨・屏風(2曲1隻) 104.5×170.2
④ 河村蜻山	初黒茶碗 昭和13年(1938)～昭和21年(1946)頃 陶器 6.8×14.5	12 千代倉桜舟 昭和万葉集 平成9年(1997)紙・墨32枚組

13 福田丞洲	鄭板橋詩 平成8年(1996) 紙・墨(6幅) 288.8×75.5	4 菊地素空 風景 絹本・墨 23.8×40.4
		5 フォンタネージ 予供の遊び(写真) 20.5×28.0

〈研究資料〉

1 浅井忠	狐の嫁入り(図案) 紙・水彩 28.0×39.0
2 菊地素空	門松 紙・墨・淡彩 117.5×63.3
3 菊地素空	つる 絹本・墨 30.4×15.5

〈千葉県美術品等取得基金〉

③ 時田幸彦	レダと白鳥 平成7年(1995) キャンバス・油彩 162.0×194.0
--------	---

◆収蔵資料数一覧

平成10年3月31日現在

受入方法 種別	購入	寄附	保管換	合計
日本画	123	134	26	283
洋画	338	391	43	772
彫刻	82	25	14	121
工芸	142	111	10	263
書	109	95	14	218
版画	152	53	5	210
合計	946	809	112	1,867
研究資料	243	1,242	53	1,538

管 理 運 営

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、活動的な美の広場を目標として展示・普及活動を行っている。

協議会では、美術館の運営について諮問を行った。

■ 機 構

組織及び事務分掌 (10.3.31現在)

館 長

副館長(1)

※庶務課長を
兼務

庶務課(5) 課長(副館長兼)1,主事3,
主任用務員1

- ・公文書の授与発送及び保存に関すること
- ・職員の人事・服務に関すること
- ・職員の給与・旅費に関すること
- ・予算の編成・執行に関すること
- ・物品の出納、使用料等の徴収に関すること
- ・その他庶務会計全般に関すること
- ・施設設備の管理に関すること
- ・防犯・防災に関すること
- ・駐車場の管理に関すること
- ・その他庶務全般に関すること

普及課(5) 課長1,研究員3,主任技師1

- ・講演会・実技講座等の企画運営に関すること
- ・館事業の広報に関すること
- ・こども写生会に関すること
- ・情報資料室の整備活用に関すること
- ・美術資料の収集・提供に関すること
- ・展示室の団体利用に関すること
- ・利用者のガイダンスに関すること
- ・友の会の育成に関すること

学芸課(5) 課長1,研究員4

- ・美術資料の収集に関すること
- ・美術資料の保管・整備・補修に関すること
- ・展覧会の企画運営に関すること
- ・美術資料の貸出等に関すること
- ・美術資料等の調査研究に関すること
- ・展示備品の整備保管に関すること

千葉県立美術館協議会(10)

館運営の円滑化を図るため、館長の諮問機関として置かれ、学校教育、社会教育関係者並びに学識経験者の中から10人を県教育委員会が任命している。

千葉県立美術館友の会

館の活動に提携し、展覧会・実技講座・美術鑑賞会の開催・会報の発行などを行っている。

■ 平成 9 年度職員

館 長 渋 谷 哲 成
副 館 長 飯 田 浩 二
兼庶務課長

庶 務 課

主 事 (〃) 川 内 啓 子
主 事 (〃) 菅 生 力 生
主 事 (〃) 藤 田 大
主任用務員 (〃) 長 島 則 子

普 及 課

普及課長 藤 川 正 司
研究員(派) 吉 見 節 子
〃 (〃) 金 田 雅 成
〃 (〃) 相 川 順 子
主任技師 (〃) 中 松 れ い

学 芸 課

学芸課長 前 川 公 秀
研究員(派) 篠 田 哲 也
〃 (〃) 椎 名 敦 夫
〃 (〃) 斎 藤 祐 一
〃 (〃) 山 崎 京 子
主任技師 (〃) 幅 大
(9.5.31転出)

非 常 勤 大 岩 浩

■ 県立美術館協議会委員

石 川 陸 郎 東京国立博物館学芸部保存修復管理官
(~9.6.28)

石 崎 朋 夫 千葉県経営者協会専務理事

岡 野 輝 男 日本放送協会千葉放送局長
(9.8.1~)

川 津 幸 枝 全日本書芸文化院常任理事
(9.4.1~)

久 米 公 大東文化大学文学部教授

久 保 田 芳 彦 日本放送協会千葉放送局長
(~9.7.31)

齋 藤 志 貴 雄 元千葉県立千葉東高等学校長

櫻 井 和 一 千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長

新 城 瑠 璃 ネスコ(株)相談役
(千葉県立美術館友の会副会長)

滝 沢 功 千葉県教育研究会造形部会長
(~9.7.31)

長 谷 川 昂 前千葉県美術会会長

湯 浅 守 彦 千葉県教育研究会造形部会長
(9.8.1~)

■ 利用状況

入館者数一覧

種別 月	開館 日 数	個　人			団　体						人數 合計	備　考
		一般 成人	大・ 高生	中・ 小生	一般成人		大・高生		中・小生			
		人　数	團体数	人　数	團体数	人　数	團体数	人　数	團体数			
4	26	8,218	336	756	140	5	0	0	124	1	9,574	
5	27	16,968	585	1,891	385	5	20	1	250	1	20,099	特別展 「マルク・ シャガール」展
6	25	19,578	814	5,325	561	14	38	1	87	3	26,403	
7	27	7,953	200	1,062	317	9	0	0	72	2	9,604	
8	27	8,331	323	2,577	112	3	0	0	69	2	11,412	
9	25	10,797	222	1,286	484	13	0	0	0	0	12,789	特別展 「小堀進展」
10	23	9,573	635	331	436	11	227	2	0	0	11,202	
11	25	13,538	1,419	1,775	202	7	20	1	0	0	16,954	
12	21	14,830	91	8,770	118	3	0	0	264	3	24,073	
1	23	9,185	111	387	520	17	0	0	22	1	10,225	
2	24	12,900	489	2,207	142	4	0	0	342	3	16,080	
3	26	7,712	1,127	1,522	0	0	0	0	205	1	10,566	
計	299	139,583	6,352	27,889	3,417	91	305	5	1,435	17	178,981	

開館以来　総開館日数 6,827日　　総入館者数 4,003,750人

地域別入館者数

種別 月	開館 日 数	県　内		県　外		外　国
		千　葉　市	そ　の　他	東　京　都	そ　の　他	
4	26	4,263	4,135	429	740	7
5	27	8,423	9,246	1,703	713	14
6	25	13,512	11,569	675	636	11
7	27	3,534	5,324	237	497	12
8	27	4,296	6,065	429	614	8
9	25	4,785	7,003	281	713	7
10	23	3,628	6,590	210	681	3
11	25	7,302	8,550	273	792	37
12	21	6,523	17,099	153	296	2
1	23	4,558	5,206	241	218	2
2	24	6,872	7,778	910	518	2
3	26	4,014	5,543	223	782	4
計	299	71,710	94,108	5,764	7,200	109

■ 展示室利用団体

太字は県芸術フェスティバル事業

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
1	第34回全日本綜合書道大展覧会	4/8 - 13	書	558
2	第8回千葉県木彫会展	4/8 - 13	彫刻	52
3	第21回鳳聲会書作展	4/15 - 20	書	102
4	第67回郷陽会展	4/15 - 20	洋画	193
5	第11回ガラス絵コクリコ会展	4/15 - 20	ガラス絵	46
6	第11回千葉水彩展	4/22 - 27	洋画	95
7	第28回表美展	4/22 - 27	表装・額装・屏風	119
8	第23回歩会彫刻展	4/22 - 5/5	彫刻	52
9	MUSABI展	4/29 - 5/5	日本画・洋画・工芸・立体・その他	50
10	第24回千葉新協展	4/29 - 5/5	洋画	100
11	第37回千葉アマチュア美術会展	5/7 - 11	絵画・書・彫刻・版画・工芸・デザイン・その他	1,508
12	第21回墨の県展	5/13 - 18	水墨画・日本画・洋画・写真・その他	372
13	第15回日中友好書道展覧会	5/20 - 25	洋画・書	2,113
14	第42回二科会千葉支部展	5/27 - 6/1	洋画	906
15	第23回蓼展	5/27 - 6/1	日本画・洋画・彫刻・工芸・写真	61
16	第44回千葉県書道協会展	6/3 - 8	書	548
17	第24回千虹会日本画展	6/3 - 15	日本画	32
18	第22回関東全展	6/10 - 15	日本画・洋画・その他	196
19	千葉幼児美術展	6/10 - 15	絵画	2,000
20	第20回千葉一陽展	6/17 - 22	洋画	215
21	第12回日本画四季展	6/17 - 29	日本画	56
22	第41回千葉県小中学校書写展覧会	6/24 - 29	書	1,500

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
23	第42回千葉二紀会展	6/24 - 29	洋画	98
24	第25回記念水彩連盟千葉支部展	7/1 - 6	洋画	66
25	「明日を拓く」教育美術展	7/1 - 6	児童画	2,500
26	第11回カラーダスト展	7/1 - 6	洋画	64
27	第20回精銳展	7/1 - 6	洋画	150
28	第19回新槐樹社千葉県支部展	7/8 - 13	洋画・彫刻	40
29	第93回習美会初夏大作展	7/8 - 13	日本画・洋画・水墨画	147
30	日本水彩画会第13回千葉県支部展	7/8 - 13	洋画	69
31	第29回千葉市水墨画同好会連合会展	7/15 - 27	水墨画	479
32	第26回写真千葉県展	7/29 - 8/10	写真	289
33	第18回龍峠書道会千葉展	7/29 - 8/3	書	320
34	第31回漱雲会全国書道展	7/29 - 8/3	書	618
35	第27回新構造千葉支部展	8/5 - 10	洋画・彫刻・工芸・写真	167
36	第11回白亜美術千葉支部展	8/5 - 10	洋画	35
37	第27回「いてふ」会彫刻展	8/12 - 24	彫刻	53
38	第7回太平洋美術会千葉支部展	8/19 - 24	洋画・彫刻・工芸	134
39	第35回新世紀美術協会千葉支部展	8/26 - 31	洋画	82
40	97第一美術協会千葉県支部展	8/26 - 31	洋画・彫刻・工芸	125
41	第14回「美しい郷土」 絵画コンクール優秀作品展	8/26 - 31	児童画	684
42	第37回白扇書道会展	9/2 - 7	書・その他	6,316
43	第29回ファンシー洋画展	9/9 - 15	洋画	75
44	第30回千葉県高校芸術祭 「合同写真展」	9/9 - 15	写真	446

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
45	第20回千葉県写真展	9/9 - 21	写真	250
46	第20回千葉等迦会千葉県支部展	9/17 - 21	洋画	62
47	第44回千葉県勤労者美術展	9/17 - 21	洋画・書・写真	352
48	第47回デザインフェスタCHIBA	9/23 - 28	デザイン	149
49	第24回文化書道千葉県連合会公募展	9/23 - 28	書	490
50	日本書道学会千葉県連会第13回書道展	9/23 - 28	書	178
51	第22回葉美会展	9/30 - 10/5	日本画・洋画・写真	66
52	第17回二科会写真部千葉支部展	9/30 - 10/5	写真	81
53	第8回千葉県教育芸術祭	10/7 - 12	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・その他	813
54	第49回千葉県美術展覧会(県展)	10/18 - 11/9	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	2,547
55	千葉県高校芸術祭 「美術工芸書道作品展」	11/12 - 24	絵画・彫刻・工芸・書・デザイン・その他	3,049
56	第29回千葉現展	11/26 - 30	洋画・デザイン・写真・立体	83
57	ダネラ展	11/26 - 30	工芸	66
58	第42回こども県展	12/2 - 14	絵画	9,134
59	第17回日本春秋書院千葉書連展	12/16 - 21	書	114
60	第15回明るい社会づくりポスター コンクール展覧会	12/16 - 21	ポスター	1,200
61	富士百景写真展	1/6 - 11	写真	110
62	第33回登龍社書初展	1/6 - 11	書	396
63	第31回千葉県老人クラブ会員作品展	1/20 - 25	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・その他	360
64	第15回千葉県医師会美術展	1/20 - 25	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真	111
65	群鳴書人展	1/27 - 2/1	書	46
66	第13回書星選抜展	1/27 - 2/1	書	315

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
67	第50回千葉県小中高校書初展覧会	2/3 - 8	書	1,309
68	第23回子ども造形展	2/3 - 8	児童画・その他	2,000
69	千葉大学教育学部美術科図工科卒業制作展	2/10 - 15	洋画・彫刻・デザイン・工芸・その他	44
70	千葉大学教育学部第32回学生書道展	2/10 - 15	書	200
71	千葉県立幕張総合高校書道コース卒業制作展	2/10 - 15	書	52
72	第27回千葉県大学美術連盟展	2/17 - 22	日本画・洋画・その他	73
73	第23回千葉県民写真展	2/17 - 22	写真	438
74	千葉県建設業協会文化作品展	2/17 - 22	絵画・彫刻・工芸・書・写真・その他	169
75	第25回千葉書壇秀抜・新進展	2/24 - 3/1	書	411
76	第3回翔洋展	3/3 - 8	洋画	41
77	第9回日本童謡の書展	3/3 - 8	書	2,366
78	第21回唱和会書展	3/10 - 15	書	119
79	和洋女子大学卒業展	3/10 - 15	書	54
80	第45回書星教育部展	3/24 - 29	書	706

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下煤塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイルー先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炻器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2,400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施行時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防げ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルターの3種類の空気清浄フィルターを組んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はC A V（定風量型）+ V A V（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。V A V方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つV A V方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の

異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源により全体計画されている。

自然光源は展示棟の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx（平均）以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値があり、また水平面照度にしても50,000lx（薄暗）から5,000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による通過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエスチル（通過率53.6%）と黒地のジョーゼット（通過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

〈設計及び工事監理者〉

大高建築設計事務所

〈施工者〉

建築：（株）竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業（株）

衛生＝第一管工事（株）

電気＝関東電気工事（株）

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

〈都市計画地域指定〉

用途地域：準工業地域

〈規模・面積〉

敷地面積	33,057.87m ²
------	-------------------------

建築面積	8,777.94m ²
------	------------------------

延床面積	10,663.57m ²
------	-------------------------

展示棟	6,343.02m ²
-----	------------------------

管理棟	2,818.89m ²
-----	------------------------

県民アトリエ棟	1,501.66m ²
---------	------------------------

駐車台数	97台
------	-----

〈工期及び建設経費〉

(1) 第1期工事 (展示棟) 5, 194.59m²
(建築面積5, 102.35m²)

○工 期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775, 967千円

本体工事	425, 230千円
電気設備工事	79, 663千円
空調設備工事	166, 493千円
給排水衛生設備工事	28, 995千円
外構工事	67, 705千円
ガス工事	7, 881千円

(2) 第2期工事 (管理棟) 2, 274.60m²

(建築面積1, 089.50m²)

○工 期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453, 800千円

本体工事	307, 500千円
電気設備工事	30, 000千円
空調設備工事	79, 000千円
給排水衛生設備工事	19, 514千円
外構工事	17, 786千円

(3) 第3期工事 (県民アトリエ) 1, 501.66m²

(建築面積1, 449.34m²)

○工 期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370, 000千円

本体工事	265, 300千円
電気設備工事	35, 000千円
空調設備工事	56, 200千円
給排水衛生設備工事	13, 500千円

○工 期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8, 000千円

外構工事 8, 000千円

(4) 第4期工事 (第8展示室) 148.43m²

収蔵庫544.29m³ 1, 692.72m²

(建築面積1, 136.75m²)

○工 期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747, 500千円

本体工事	476, 000千円
電気設備工事	81, 000千円
空調設備工事	171, 000千円
給排水衛生設備工事	19, 500千円

総工事費 2, 355.267千円

工期別面積一覧

区分	地階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	325.04	4,750.79	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	338.26	8,474.25	1,793.30	57.76	10,663.57

〈概要〉

建物

【階数】

地下1階、地上2階、塔屋1階建

【高さ】

基礎底: G L -5.00m

高さ: G L +15.20m

【構造】

主体構造: 鉄筋コンクリート造

屋根: 鉄骨造

主鋼材: S S 4 1 及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート(基礎・地中梁・1階スラブ)

$F_c = 210 \text{ k g / cm}^2$

B種・軽量コンクリート(梁・スラブ用・地上部)

$F_c = 300 \text{ k g / cm}^2$

C種・軽量コンクリート(地上部躯体でA B以外の梁・壁など) $F_c = 240 \text{ k g / cm}^2$

〈設備〉

【電気設備】

受電方式: 交流3相3線式6, 000V 50Hz

電話交換方式: 64回線デジタル交換機方式

【空調設備】

展示棟=C A V (定風量型) + V A V (可変風量型) 方式

管理棟=V A V方式

保管庫=露点再熱制御方式

県民アトリエ棟=各室ハンドリング方式

熱源: 空気熱源スクリュー熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水: ポンプ圧送方式、引込み管径75mm

排水: 汚水・雑排水合流方式系統(管径300)、雨水系統(管径300)別、公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式: 自然排煙、機械排煙(第1, 2, 7展示室)

消化方式: 屋外・屋内消化栓、不燃性ガス消化設備(ハロゲン1301)

自家発電: ディーゼル機関直結交流発電機、定格出力100kVA

火災報知設備: P型1級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備: I T V カメラ設備、防犯警報装置

昇降機設備: 荷物用エレベーター

規模: 容量3, 000k g,

カゴ内法=3, 000mm×3, 000mm×3, 000mm,
速度30m/min

展示棟

玄関ホール	102.40m ²
口一庫	91.80m ²
倉庫A	2.70m ²
〃B	〃
第1展示室	437.76m ²
〃2	400.32m ²
〃3	469.08m ²
〃4	403.20m ²
〃5	824.19m ²
〃6	330.58m ²
〃7	566.56m ²
〃8	864.61m ²
食堂	119.52m ²
厨房	36.00m ²
従業員控室	17.28m ²
食堂ホール	49.20m ²
ミュージアムショップ	12.00m ²
口ビ	335.52m ²
第1休憩室	23.04m ²
〃2	〃
〃3	〃
便所A	30.24m ²
〃B	23.76m ²
身障者用便所	7.92m ²
コントロール室	20.16m ²
フィルタ室	28.92m ²
工作室	31.00m ²
発電室	25.00m ²
電気室	123.20m ²
ボンブ室	76.80m ²
機械室	305.20m ²
機械室(新)	283.82m ²
高架水槽室	11.46m ²
E.V機械室	27.28m ²
E.V廻り	54.56m ²
ダクトスペース	35.68m ²
廊下等	123.48m ²

計 ① 6,343.02m²

管理棟

(1階)	
第2会議室	22.62m ²
更衣室	14.38m ²
医務室	21.18m ²
書庫	22.02m ²
警備員室	43.59m ²
第1会議室	20.15m ²
倉庫	7.19m ²
湯沸室	5.19m ²
便所	24.54m ²
宿直室	34.20m ²
直置	9.92m ²
物置	31.83m ²
用務員室	520.68m ²
審査室・資料室	31.79m ²
準備室・荷解室	124.25m ²
消毒室	52.67m ²
資料倉庫	21.94m ²
荷解棚包室	51.74m ²
荷扱人室	123.52m ²
機械室	
廊下等	
小計	1,183.85m ²
(2階)	
館長室	33.27m ²
副館長室	23.42m ²
第1応接室	14.67m ²
第2応接室	14.55m ²
庶務課室	112.34m ²
会議室	43.84m ²
学芸課・普及課室	195.32m ²
学芸相談室	23.91m ²
研究工作室	216.49m ²
写真スタジオ	54.30m ²
器材室	6.74m ²
暗室	12.19m ²
第1収蔵室	184.40m ²
〃2	42.81m ²
〃3	544.29m ²
E.V前室	16.39m ²
便所	21.50m ²
湯沸室A	3.24m ²
〃B	6.87m ²
廊下等	60.94m ²
ダクトスペースその他	3.56m ²
小計	1,635.04m ²
計 ②	2,818.89m ²

県民アトリエ棟

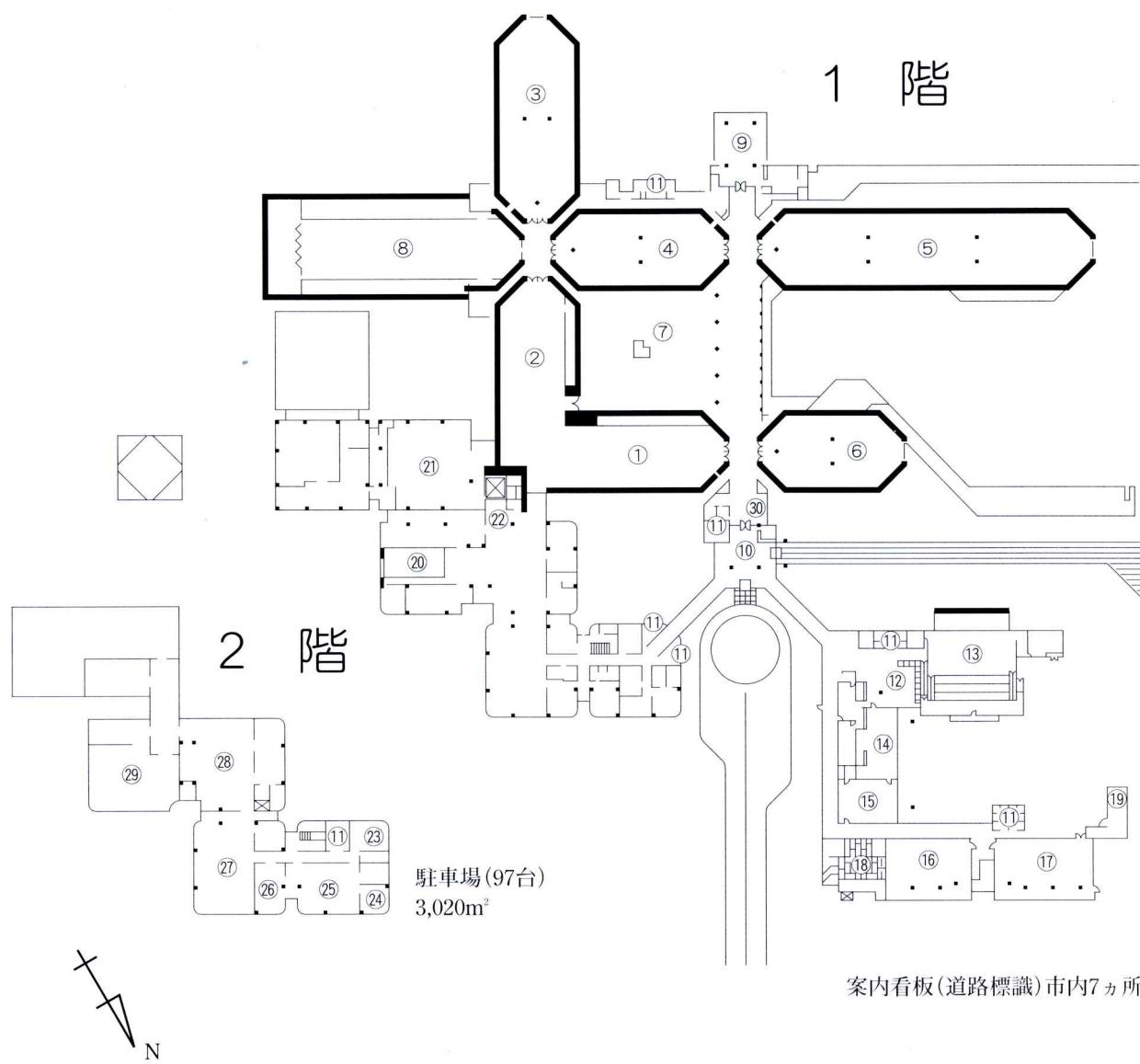
1F機械室	25.92m ²
講堂倉庫	8.64m ²
講堂	259.24m ²
コントロール室	30.33m ²
ホール側便所	29.97m ²
情報資料室	172.77m ²
情報資料室倉庫	4.70m ²
事務室	22.76m ²
研修室	74.70m ²
研修室倉庫	4.23m ²
第1アトリエ	155.70m ²
〃2	184.31m ²
〃3	95.47m ²
アトリエ側便所	20.77m ²
荷解室	25.65m ²
窯場倉庫	27.17m ²
ホールその他	6.66m ²
計 ③	352.67m ²
合計	1,501.66m ²
(①+②+③)	10,663.57m ²

参考

*展示室総面積	4,296.30m ²
*収蔵庫総面積	771.50m ²

内容

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ①～⑧展示室 | ⑯～⑯実技室 |
| ⑨食堂 (44席) | ⑯窯場 |
| ⑩玄関ホール | ⑰搬出入口 |
| ⑪トイレ | ⑲機械室 |
| 男子用 6ヶ所 | ⑳エレベーター |
| 女子用 6ヶ所 | ㉑館長室 |
| 身体障害者用 2ヶ所 | ㉒副館長室 |
| ⑫ホール | ㉓庶務課 |
| ⑬講堂 (200人) | ㉔会議室 |
| ⑭情報資料室 | ㉕学芸課・普及課 |
| 火～金
12:30～16:30 | ㉖研究工作室 |
| ⑮研修室 (40人) | ㉗収蔵庫 |
| | ㉘ミュージアム
ショッピング |



関 係 法 令 等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号
(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。
(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

一 定期休館日月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）

二 国民の祝日に関する法律に規定する休日

三 年始休館日 1月1日から1月4日まで

四 年末休館日 12月26日から12月31日まで

五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することがある。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 特別展覧会又は現代産業科学館の映像ホールを観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しない者

二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者

三 泥酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 現代産業科学館の映像ホール観覧券は、別記第2号様式とする。

3. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第3号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。

二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四 その他、他の入館者の妨げになるような行為すること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料および手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区分	単位	額
博物館	入館料	特別展覧会	1人1回につき	1,000円以内

（以下省略）

3. 使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六（抜粋）

行 事 等	施 設
県民の日(6月15日) 65歳以上の者、身体障害者 (介護者を含む。) 又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

利 用 案 内

■ 開館時間

開館時間	午前9時から午後4時30分まで
休館日	<ul style="list-style-type: none">・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）・年末年始（12月26日～1月4日）・展示替え等のため、必要があるとき。
観覧料・	無料（ただし、特別展は有料）

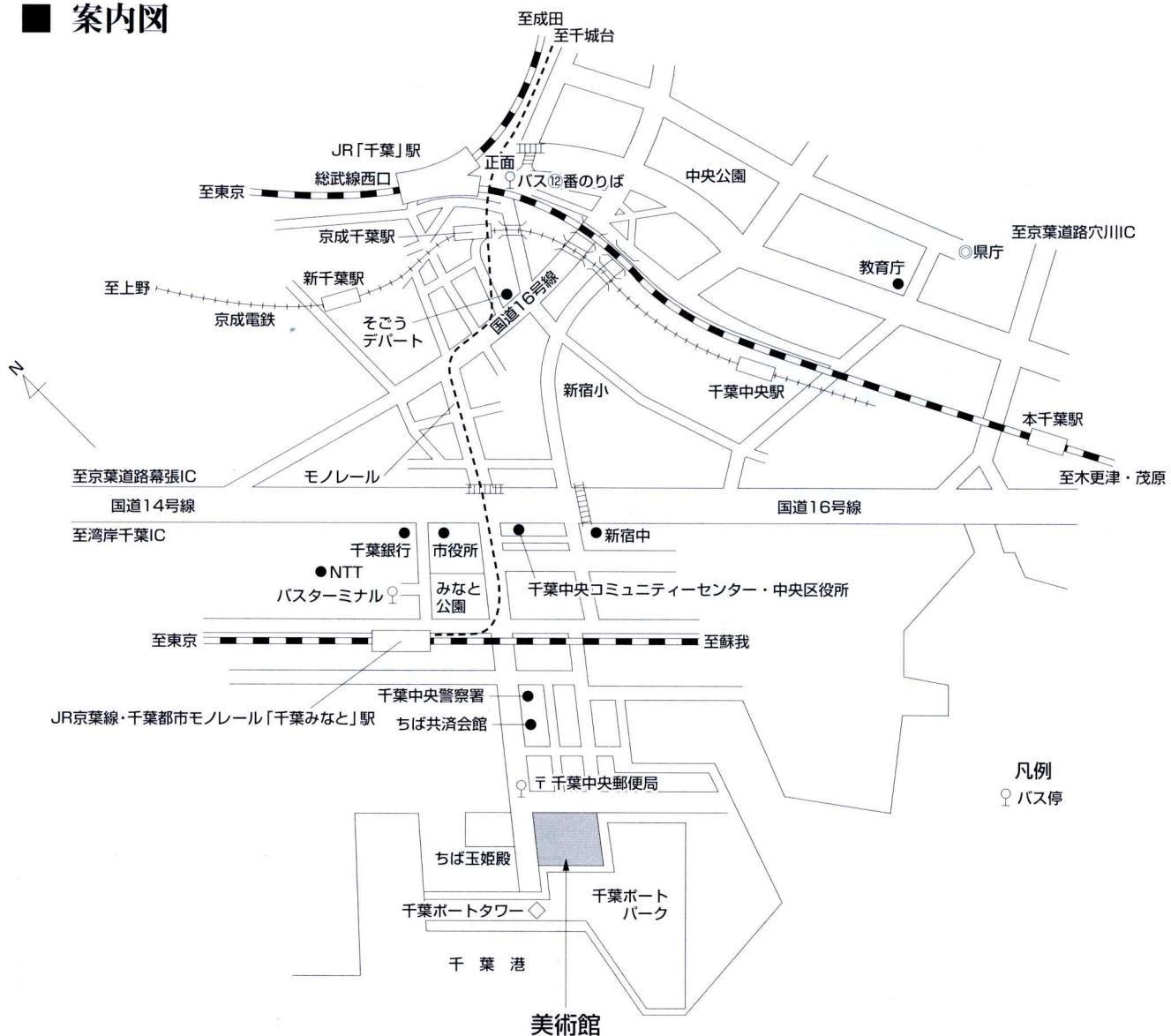
■ 交 通

★JR「千葉」駅・京成線「京成千葉」駅下車

- 徒歩23分。
 - バス⑫番のりばから「千葉ポートタワー」行にて15分。「美術館・中央郵便局前」下車、徒歩1分。

★JR(京葉線)・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車、徒歩8分。

■ 案内図



平成9年度千葉県立美術館年報 (No.24)

平成10年5月31日発行

発行者 千葉県立美術館

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

T E L 043 (242) 8311

印 刷 (株) 集 賛 舍



